Nikon

使用説明書

Jp

安全上のご注意

このたびは、ニコンF5をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。

表示と意味は次のようになっています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警告・注意の詳細につきましては、P.8〜P.10をご参照ください。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

各部の名称

レンズ取り外しボタン ☞P.25

フォーカスモード
セレクトダイヤル ☞P.50

シンクロターミナル
☞P.114

セルフタイマー
表示LED ☞P.82

給送モードセレクト
ダイヤルロックボタン
☞P.56

裏ぶた
ロックレバー ☞P.34/43

給送モードセレクト
ダイヤル ☞P.56

アクセサリーシュー ☞P.114

ミラーアップレバー ☞P.102

プレビューボタン ☞P.103

サブコマンドダイヤル ☞P.18/20

シャッターボタン ☞P.29

電源スイッチ ☞P.28/96

電源スイッチ
ロックボタン ☞P.28

露出補正ボタン ☞P.77

露出モードボタン ☞P.46

上面表示パネル ☞P.6

AFエリアモードボタン ☞P.53

多重露出ボタン ☞P.84

距離基準マーク ☞P.104

外部警告LED ☞P.41/106

ファインダー接眼窓

AE/AFロックボタン ☞P.73/75

R2レバーロックボタン ☞P.42

AF作動ボタン(横位置用) ☞P.30/97

R2レバー ☞P.42

メインコマンドダイヤル ☞P.18/20

巻き戻しクランク ☞P.101

巻き戻しノブ ☞P.34/43/101

吊り金具

吊り金具

R1ボタン ☞P.42/100

10ピンターミナル ☞P.105

単3ホルダー着脱ノブ ☞P.26/27

AF作動ボタン(縦位置用) ☞P.30/97

フォーカスエリアセレクター ☞P.54

単3ホルダー ☞P.26/27

AE・SBブラケティングボタン ☞P.78

背面表示パネル ☞P.6

ISO感度ボタン ☞P.32/98

カスタムセッティングボタン ☞P.87

コマンドロックボタン ☞P.20

シンクロモードボタン ☞P.116

各部の名称

電子制御カメラの特性について

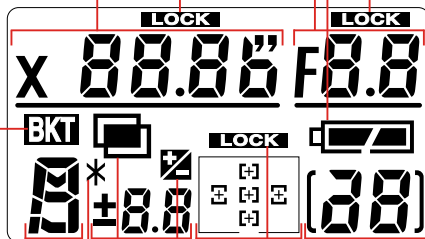
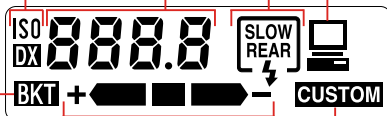
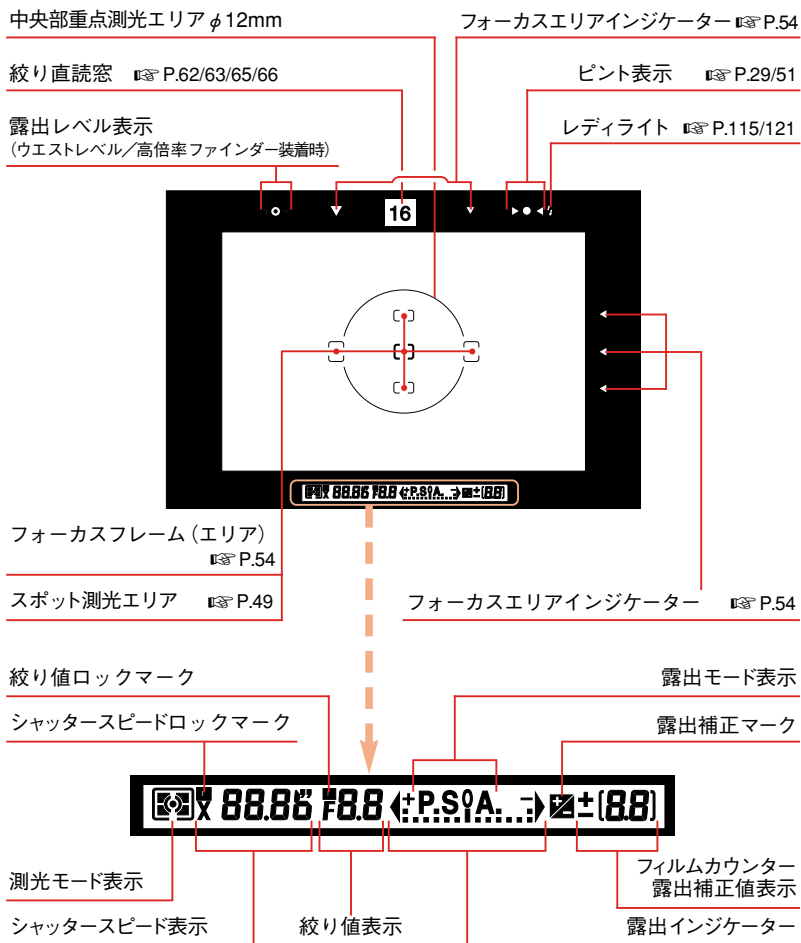
きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。それでも不具合が続く場合は、最寄りの当社サービス機関にお問い合わせください。

シャッター幕の特性について

シャッターを作動させるとシャッター幕に走行跡が生じますが、これはカメラの耐久性と高速駆動を得るための特性であり異常ではありません。また、性能上も影響を及ぼすことはありません。

外部表示パネルの表示一覧

■上面表示パネル

シャッタースピードロックマーク ☞P.61/65
シャッタースピード表示 ☞P.60/64
ブラケティングマーク ☞P.78
絞り値表示 ☞P.62/65
バッテリーチェック表示 ☞P.28
絞り値ロックマーク ☞P.63/66
露出モード表示 ☞P.46
プログラムシフトマーク ☞P.69
多重露出マーク ☞P.84
露出補正値表示 ☞P.77
フィルムカウンター ☞P.35/42/43
フォーカスエリアロックマーク ☞P.55
フォーカスエリア表示 ☞P.54
露出補正マーク ☞P.77

■背面表示パネル

〔イルミネーターパネルの寿命について〕
上面表示パネルおよび背面表示パネルを照明するイルミネーターパネルは消耗品ですので、使用状況によって明るさが徐々に低下します。これはイルミネーターパネルの消耗によるもので故障ではありません。イルミネーターパネルの交換をご希望の場合は、最寄りの当社サービス機関へお申し付けください。有償にて交換させていただきます。

ファインダー内と外部表示パネルの液晶およびECには次のような特性があります。

高温下では、液晶表示が黒くなることがあります。また、低温下では、液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。いずれの場合も常温時には正常に戻ります。
フォーカスフレームはEC(エレクトロクロミック)を使用していますが、この場合も同様です。

⚠警　告

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガをすることがあります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり､破損部でケガをすることがあります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

電池を取る

すぐに修理依頼を

発熱、発煙、焦げ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。
電池を取り出す際、火傷に充分注意すること。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり水をかけたりしないこと

発火したり感電することがあります。

使用禁止

可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと

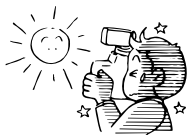
爆発、火災の原因になることがあります。

⚠警　告

禁　止

ストラップが首に巻き付かないようにすること　特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息することがあります。

見ないこと

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害になることがあります。

⚠注　意

発光禁止

目の近くでスピードライトを発光しないこと

一時的な視力障害になることがあります。

感電注意

ぬれた手で操作しないこと

感電の原因となります。

放置禁止

製品および付属品は、幼児の手の届かない所に保管すること

ケガをしたり付属品や電池を飲み込む恐れがあります。

⚠注　意

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光がレンズに入射し、発火の原因となります。

移動禁止

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因となります。

禁　　止

電池を火に入れたり、ショート、分解、加熱をしないこと

破裂、発火の原因となります。

使用注意

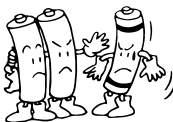
電池に表示された警告・注意を守ること

破裂、発火の原因となります。

使用注意

使用説明書に表示された電池を使用すること

発熱、発火の原因となります。

禁　　止

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使わないこと

破裂、発火の原因となります。

ご確認ください

■保証書とカスタマ登録カードについて

この製品には、保証書とカスタマ登録カードが添付されていますので、ご確認ください。

…保証書の詳細につきましては、P.152の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

■保証規定による保証修理はご購入日から3 年間

ニコンF5ボディ本体は、保証書に記載の保証規定によりご購入日から3年間、保証修理をいたします。くわしくは、当社サービス機関にお問い合わせください。

■使用説明書の再発行は当社サービス機関へ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、裏面の当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有償）。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

…本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■定期的に点検サービスを受けてください

カメラは精密機械ですので、1〜2年に1度は定期点検を、3〜5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有償）。

…特に業務用にご使用になる場合は、早目に点検整備を受けてください。

…点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライト等も併せて点検依頼されることをおすすめします。

■本製品を安心してご使用いただくために

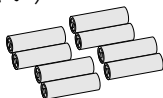
本製品は、当社製のレンズ及びスピードライトなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

…他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

CE "CEマーキング" について

CEはヨーロッパ協定（Conformité Européenne）の意味で、マーキングはその製品が適応されるEC規定をすべて満たしていることを表しています。

付属品（お確かめください）

ボディキャップ ☞ P.25

電池（8本） ☞ P.26

ストラップ
（取り付け方はボディ外箱に記載）

“別冊の構成”

別冊の「Nikon F5 ガイドブック」では、ニコンF5でできる主なことを、カラーの作例写真とともに簡略に紹介してあります。本使用説明書をお読みになった後、ポイントの確認などにご利用ください。

“本文の構成”

本文は、操作しながら自然にF5が理解できることを目的にして、基本操作から応用操作へと順を追って、下記のように構成されています。

撮影前の準備	カメラを使うための準備として、電池やフィルムの入れ方などを説明しています。	☞ P.23
簡単な撮影方法	カメラを初めてお使いになる方にも簡単に行える撮影方法を説明しています。	☞ P.36
基本的な使い方	カメラの基本的な機能を紹介し、それぞれの設定方法を説明しています。	☞ P.44
応用的な使い方	基本的な機能を応用したいろいろな撮影方法や、補助的な機能の使用法などを説明しています。	☞ P.59
各部の詳細	その他、必要に応じてお使いいただきたい装備、機能等の使用法などを説明しています。	☞ P.94
スピードライトを使って撮影するには	別売りのスピードライトを使った場合の撮影方法を説明しています。	☞ P.111
参　　考	警告表示が行われたときの対処方法などを説明しています。	☞ P.123

目次

表記上のおことわり

この使用説明書の本文中では、「コマンドダイヤル」、
「操作ボタン」を以下のように表記します。

サブコマンドダイヤル

多重露出ボタン

露出補正ボタン

AFエリアモードボタン

露出モードボタン

フォーカスエリア
セレクター

メインコマンドダイヤル

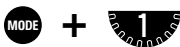
AE・SBブラケティングボタン BKT

ISO感度ボタン ISO

カスタムセッティングボタン CSM

コマンドロックボタン L

シンクロモードボタン

●操作ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回す場合の表記

（例：露出モードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す場合）

●2つの操作ボタンを同時に押す場合の表記

BKT & CSM
（同時に2秒以上押す）

※ここに記載のないボタン類はP.3〜5を参照してください。

使われているマークについて

● — 注意していただきたいこと、してはならないこと、これらを守らなかったときに予測される不具合が書いてあります。

LOCK — シャッタースピード・絞り値・フォーカスエリアのロック方法が書いてあります。

CUSTOM — カスタムセッティング機能で選択・設定できる内容が書いてあります。

NON-CPU — CPU内蔵ニッコール以外のレンズ使用時に制約される内容が書いてあります。

☞ P.00 — 参照ページが書いてあります。

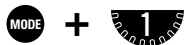
… — 補足内容が書いてあります。

操作ボタンとコマンドダイヤルの使い方

メインまたはサブコマンドダイヤルと各操作ボタンを併用、あるいは単独操作によって、各種機能の選択や絞り値等の設定が行えます。

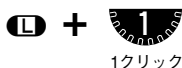
CUSTOM メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルを逆回転操作に変更できます。 ☞ P.89

■露出モード関連

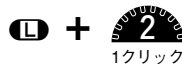
●露出モードの選択 ☞ P.46

●露出モードが*P*のときのプログラムシフト ☞ P.68

●露出モードが*S*または*M*のときのシャッタースピードの設定 ☞ P.61/64

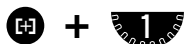
●シャッタースピードのロック／解除 ☞ P.61/65

L ＋ 1

1クリック

●露出モードが*A*または*M*のときの絞り値の設定※ ☞ P.62/65

●絞り値のロック／解除 ☞ P.63/66

※絞り値はレンズの絞りリングで設定することもできます（Gタイプニッコールレンズを除く）。CPU内蔵ニッコール以外のレンズ使用時はレンズの絞りリングによる設定のみ可能です。 ☞ P.62/63/65/66

■オートフォーカス関連

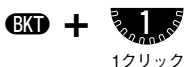
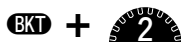
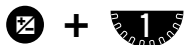
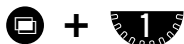
●AFエリアモードの選択 ☞ P.53

●フォーカスエリアの選択 ☞ P.54

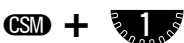
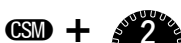
（フォーカスエリアを移動させたい方向に押し込む）

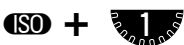
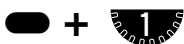
※フォーカスエリアをロックできます。☞ P.55

操作ボタンとコマンドダイヤルの使い方

■特殊撮影関連

●AE・SBブラケティングの設定／解除 ☞ P.78/80

●AE・SBブラケティングの撮影枚数と補正ステップの設定 ☞ P.79

●露出補正値の設定 ☞ P.77

●多重露出の設定／解除 ☞ P.84/85

■カスタムセッティング関連

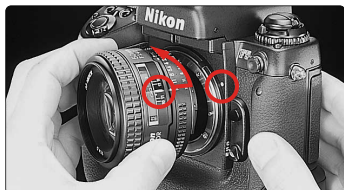
●メニューナンバー呼び出し ☞ P.87

●設定項目の選択と設定値入力 ☞ P.87

■その他

●フィルム感度の手動設定 ☞ P.98

●シンクロモードの選択 ☞ P.116

●ツーボタンリセット ☞ P.45

撮影前の準備

撮影に入る前に準備していただきたいことが
書かれています。

レンズの付け方・外し方

レンズの付け方

…カメラとレンズの指標を合わせて、レンズをカチッと音がするまで矢印方向にゆっくり回します。

●非Ai方式レンズは、そのままでは装着できません。 ☞ P.130

●電源をONにしたままレンズを着脱すると、カメラやレンズが不用意に作動する場合があります。レンズ着脱時は電源スイッチをOFFにして行ってください。

●レンズを取り付ける際には、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
レンズ取り外しボタンが押された状態のままレンズを取り付けると、レンズが正しい位置にセットできない場合があります。

レンズの最小絞りについて

…絞りリングの「最も大きい数値の絞り値」は絞り径が最小になるため最小絞りといいます。

●Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時に露出モードが*P*、*S*の場合は、レンズの絞りリングが最小絞りにセットされていないと、ファインダー内と上面表示パネルに“FEE”表示が点滅して警告します。
“FEE”表示が点滅したままシャッターをきると、制御される絞り値範囲が制約され、適正露出が得られる範囲も狭くなりますのでご注意ください。

●Gタイプニッコールレンズをこのカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように絞りを最小絞りにセットする必要がありません。

レンズの外し方

…レンズ取り外しボタン① を押しながら、レンズ② を矢印方向に回して外します。

カメラからレンズを長時間外しておく場合は

●カメラ内部にゴミやホコリが付着するのを防止するために、付属のボディキャップ、または別売りのボディキャップBF-1Aを装着してください（旧タイプのボディキャップBF-1は装着できません）。

電池の入れ方（単3形アルカリ乾電池／リチウム電池使用時）

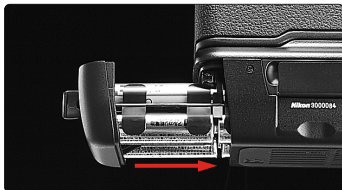
このカメラの電源として単3形アルカリ乾電池8本、または単3形リチウム電池8本、あるいは別売り（F5専用）のニッケル水素電池MN-30を使用します。
ここでは「単3形アルカリ乾電池およびリチウム電池」の入れ方を説明します。
電池の取り扱いについては ☞ P.151

1 単3ホルダーMS-30を取り出す。

…電源スイッチ（☞ P.28）はOFFの状態で、単3ホルダー着脱ノブを方向に回して、ロックを解除してから単3ホルダーMS-30を引き出してください。

2 ⊕⊖ の指示に従って電池（8本）を入れる。

● ⊕⊖ を間違えますと、故障の原因となる場合があります。

3 単3ホルダーMS-30を押し込んでロックする。

…単3ホルダー着脱ノブを右側に回して、単3ホルダーMS-30をロックしてください。
● 単3ホルダーMS-30を単体で携帯する場合には、他の金属などとの接触によるショートを防ぐため、電池を取り出すか、またはケースなどに収納してください。

電池の入れ方（ニッケル水素電池MN-30使用時）

ここでは別売りの「ニッケル水素電池MN-30」使用時の電池の入れ方を説明します。

ニッケル水素電池MN-30の取り扱いについては、ニッケル水素電池MN-30の使用説明書をお読みください。

1 単3ホルダーを取り出す。

…電源スイッチ（☞ P.28）はOFFの状態で、単3ホルダー着脱ノブを⦓方向に回して、ロックを解除してから単3ホルダーを引き出してください。

2 MN-30を押し込んでロックする。

…MN-30の開閉ノブを右側に回して、MN-30をロックしてください。

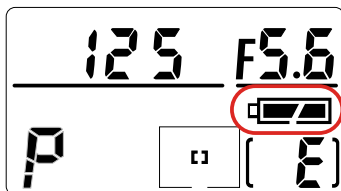
電池容量のチェック方法

新たに電池を入れたときや撮影の前などには、電池容量をチェックしてください。

1 電源スイッチをONにする。

…電源スイッチロックボタン①を押しながら電源スイッチ②を回し、ON表示を指標に合わせます。

…電源スイッチをONにすると、ファインダー内や外部表示パネルに表示が点灯します。

2 バッテリーチェック表示を確認する。

…バッテリーチェック表示の内容

（点灯）：電池容量は充分です。

（点灯）：電池容量はわずかです。予備の電池を用意してください。

（点滅）：新品電池と交換してください（シャッターがきれなくなっても点滅します）。

●撮影の際には、新しい予備の電池をご用意ください。
特に、海外の地域によっては電池の入手が困難な場合があります。

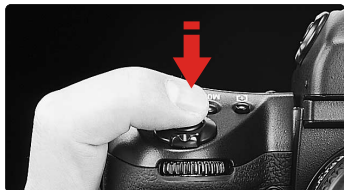
●電池交換の際は、☞ P.151「電池の取り扱いについて」の注意事項を必ず守ってください。

●消耗した電池の特性として、休ませると一時的に電圧が復帰し、バッテリー表示が“ ”と表示されることがあります。この場合、使用する電池によっては、シャッターをきると急激に電圧が低下して正常に機能しないことがありますが、新品電池に交換すれば正常に作動します。

シャッターボタンの押し方・カメラの構え方

このカメラのシャッターボタンは、二段押し機構になっています。
シャッターボタンを軽く押して途中で止める操作を「半押し」と呼びます。
この半押し操作でピントと露出が決まり、半押し状態からさらに深く押し込むと、シャッターがきれます。

シャッターボタンを半押しすると

【横位置】

【縦位置】

…シャッターボタンを半押しすると、オートフォーカス機構などが作動するとともにファインダー内と外部表示パネルに表示が点灯し、半押し後シャッターボタンから指を離しても半押しタイマーが働いて約8秒間表示を続けます。

CUSTOM 通常約8秒間の半押しタイマー作動時間を、約4秒、約16秒、約32秒のいずれかに変更できます。 ☞ P.91

ファインダー内の主な表示

表　示	表示の内容	参照ページ
● 点灯	被写体にピントが合うと点灯します。	☞ P.50
▶ 点灯	目的の被写体よりも手前にピントが合うと点灯します。	☞ P.51
◀ 点灯	目的の被写体よりも後方にピントが合うと点灯します。	☞ P.51
▶ ◀ 点滅	オートフォーカスでピント合わせができないときに点滅します。	☞ P.51

●フォーカスモードがフォーカス優先のAFモード（S）時は、“●”表示が点灯していなければシャッターはきれませんが、被写体が動いている場合は、P.51「予測駆動フォーカスについて」に記載してある条件でシャッターをきることができます。

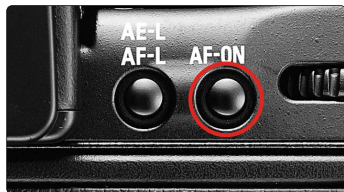
CUSTOM フォーカスモードが**S**または**C**のときに表示される、前ピン“▶”・後ピン“◀”表示を点灯させないようにできます。 ☞ P.93

※露出警告表示については ☞ P.57

縦位置シャッターボタンについて

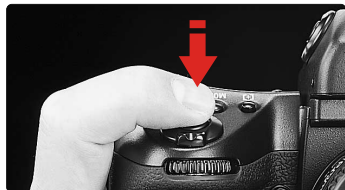
縦位置シャッターボタンをご使用になる場合は、縦位置シャッターボタンロックレバーをON位置にセットしてください。

AF作動ボタンについて

【横位置用AF作動ボタン】

【縦位置用AF作動ボタン】

このカメラのAF作動ボタンを押すと、シャッターボタンを半押しした場合と同様に、カメラのオートフォーカス機構などが作動します。（☞ P.97）

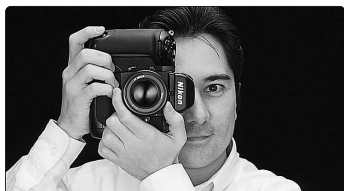
シャッターボタンはゆっくり押す

【半押し】

【全押し】

●シャッターボタンは一気に押さずに人差し指の腹の部分で軽く「半押し」した状態から、静かに押し込んでシャッターをきるようにしてください。シャッターボタンを一気に押すと、手ブレの原因となります。

カメラは動かないようにしっかり構える

【横位置の場合】

【縦位置の場合】

●シャッターをきるときにカメラが動くと、全体がボケた手ブレ写真になります。シャープな写真を撮るために、三脚を使用するか、カメラが動かないように次のように構えてください。

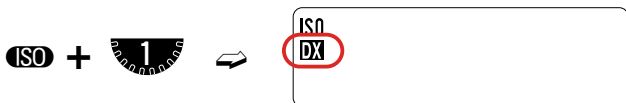
1. 片足を軽く踏み出して身体全体を安定させます。
2. 右手で、カメラのグリップを包みこむように持ち、カメラを顔に付けるようにしてファインダーをのぞきます。
3. 左ひじを体に軽くつけて、カメラを支えます。

DXマーク付フィルムの感度の設定方法

DXマーク付フィルムを使用すると、フィルム感度はカメラが自動的に設定するようにできます。

…自動設定可能なフィルム感度は、ISO25〜5000です。
DXマーク付以外のフィルムをご使用の場合は ☞ P.98
●新システム用のIX240カートリッジフィルムは使用できません。

DXマーク付きフィルムの感度の設定方法

DX表示を点灯させる。

…“DX”はISO6とISO6400の間に表示されます。
…“DX”を点灯させた後、DXマーク付フィルムを入れてフィルムの空送りが完了すると、フィルム感度は自動的にセットされます。

DXエラー警告表示

フィルム感度を“DX”に設定して、DXマーク付以外のフィルムを装填した場合は、シャッターボタンを半押ししたときに下の表示が点滅して警告します。
…手動でフィルム感度を設定してください。 ☞ P.98

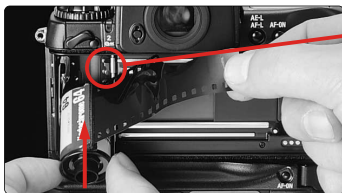
【DXエラー警告表示】

…DXマーク付きフィルムを使用した場合でも、P.98の方法でフィルム感度を意図的に変更して使用することもできますので、増感撮影などに便利です。

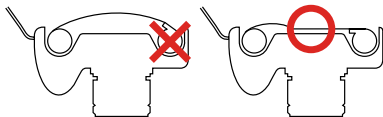
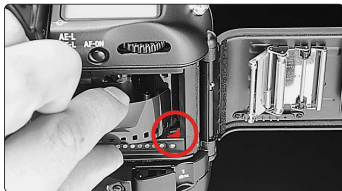
フィルムの入れ方

1 裏ぶたを開ける。

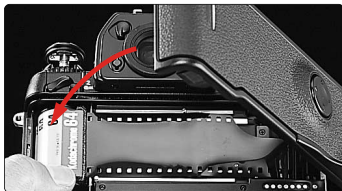
…裏ぶたロックレバー ① を▷マーク方向に押しながら、巻き戻しノブ ② を引き上げます。

2 フィルムを入れる。

…パトローネを写真のように斜めにして、パトローネ上部をパトローネ用ガイドの下にくぐらせるようにして入れると、フィルム装填が容易に行えます。

●シャッター幕は非常に薄い幕でできています。フィルムの出し入れの際に、指先やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように注意してください。シャッター幕を破損させる原因となります。

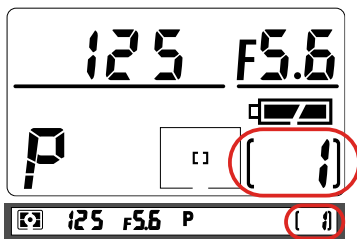
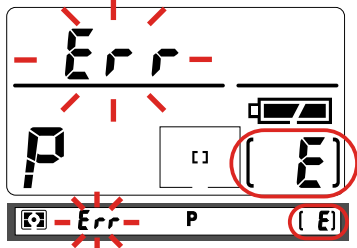
3 フィルムの先端を、赤色の指標に合わせる。

…フィルムが浮き上がらないようにフィルムパトローネを押さえて、フィルムの先端を赤色のフィルム先端指標に合わせます。

…F5は、裏ぶたを開けたまま、フィルムの巻き取り状態を確認できます。 ☞ P.99

4 裏ぶたを静かに閉じる。

…パチンと音がするまで裏ぶたをゆっくりと押しつけて、巻き戻しノブを下げてください。

●巻き戻しクランクでフィルムのたるみを取る操作はしないでください。フィルムの先端がスプロケットの歯から外れ、フィルムが正しく給送されなかったり、また、シャッター幕を破損する原因になります。

5 シャッターボタンを押してフィルムの空送りをする。

【空送り完了表示】

【フィルム給送エラー表示】

…上面表示パネルとファインダー内に「空送り完了表示」が点灯します。

●フィルムが正しく送られなかった場合は、フィルムカウンターはEのまま、Err表示が点滅し、外部警告LEDが点滅します。フィルムを取り出して入れ直してください。

CUSTOM シャッターボタンを押さなくても、裏ぶたを閉じる操作でフィルムの空送りが自動的に行われるようにできます。 ☞ P.89

簡単な撮影方法

露出モードをプログラムオートにして行う
簡単な撮影方法を説明しています。
初めてカメラをお使いになる方や、気軽に
撮影したい方におすすめのモードです。

下記の状態を基準に説明しています。

露出モード※	⇨	プログラムオート
測光モード	⇨	3D-RGBマルチパターン測光
フォーカスモード	⇨	シングルAFサーボ
AFエリアモード※	⇨	シングルエリアAFモード
フォーカスエリア※	⇨	中央
フィルム給送モード	⇨	1コマ巻き上げ
装着レンズ	⇨	DタイプAFレンズ

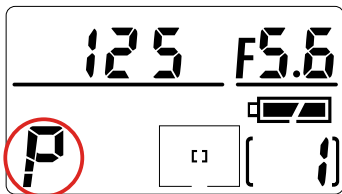
※印の各機能は、ツーボタンリセット操作で一括して設定することもできます。☞ P.45

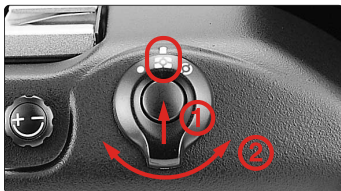
1 レンズの絞りリングを最小絞りにする（Gタイプニッコールレンズを除く）。

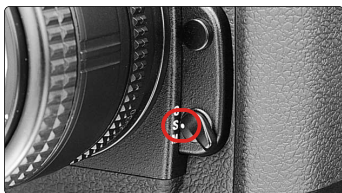
…絞りリングの「最も数値の大きい絞り値」は絞り径が最小になるため最小絞りといいます。

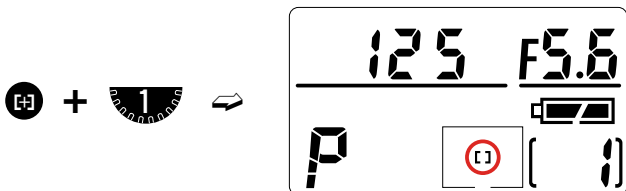
…Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを使用する場合は、レンズの絞りリングが不用意に動くことを防ぐために最小絞りにセットした後、最小絞りロックレバーを使ってロックしてください。

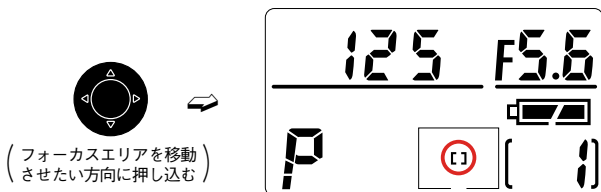
…Gタイプニッコールレンズを使用する場合は、従来の絞りリングがあるレンズのように絞りリングを最小絞りにセットする必要がありません。

2 露出モードをPにする。

●最小絞りにセットされていない場合FEE表示が点滅して警告します。

3 測光モードを にする。

…ロックボタン①を押しながら測光モードセレクトダイヤル②を回してください。

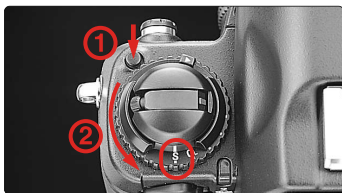
4 フォーカスモードを**S**にする。

●オートフォーカス（フォーカスモードセレクトダイヤルが**S**または**C**）で撮影する場合は、ピント合わせはカメラが自動で行います。レンズの距離リングは手で回さないでください。無理に回すと、カメラとレンズに負担がかかり故障の原因となります。

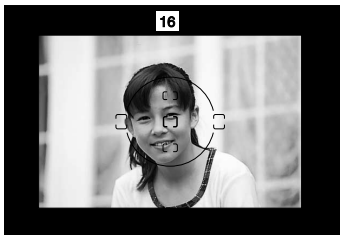
5 AFエリアモードをシングルエリアAFモードにする。

6 フォーカスエリアを中央にする。

（フォーカスエリアを移動させたい方向に押し込む）

…フォーカスエリアセレクターは上下左右に押すことができます。半押しタイマーONの状態でフォーカスエリアを移動させたい方向に押し込んでください。 ☞ P.54

…現在選択されているフォーカスエリアが点灯します。 ☞ P.54

…ファインダー内の表示も連動します。 ☞ P.54

7 フィルム給送モードをSにする。

…ロックボタン①を押しながら、給送モードセレクトダイヤル②を回してください。

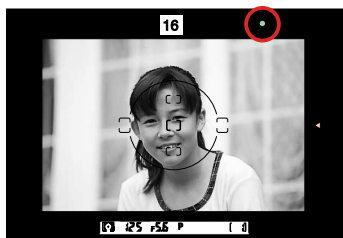
8 構図を決める。

…ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを重ねて、構図を決めます。

●撮りたいものがフォーカスフレームから外れる構図のときは、手順**6**で他のフォーカスエリアを選択するか、またはフォーカスロック撮影をしてください。 ☞ P.70

9 シャッターボタンを半押しする。

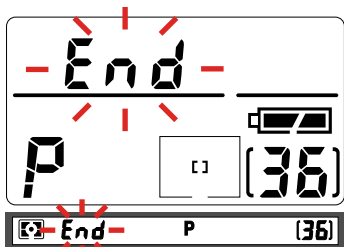
…シャッターボタンを半押しするとカメラが自動的にピント合わせをします。

●このカメラのファインダーで確認できるファインダー視野率は、実際に撮影される画面の約100%ですが、ネガフィルムをサービスサイズなどでプリントした場合には、実際に撮影した画面よりも画面の周囲が数ミリカットされる傾向がありますので、構図にご注意ください。

10 ●表示の点灯を確認して、ゆっくりとシャッターボタンを押す。

撮影フィルムが終了したら（フィルムの巻き戻し方）

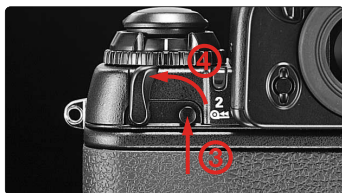
撮影フィルムが終了すると、上面表示パネルとファインダー内に下記の表示が点滅して、シャッターがきれなくなります。
…この時、外部警告LEDも点灯します。

11 フィルムの終了を確認する。

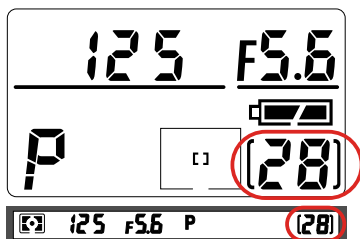
【撮影フィルム終了表示】

【外部警告LED】

…装填してあるフィルムの規定枚数は、フィルム確認窓で確認できます。
●規定枚数を超えて撮影したコマは、現像処理上カットされることがあります。

CUSTOM 35枚目、または36枚目の撮影が終了した時点でフィルム給送を停止できます。 ☞ P.90

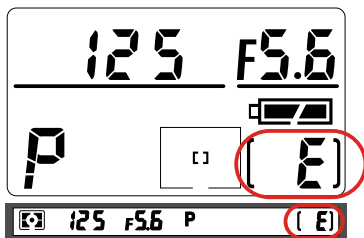
12 フィルムを巻き戻す。

…まず、カバー①を開け、R1ボタン②を押します。次に、R2レバーロックボタン③を押しながら、R2レバー④を押し上げます。

●巻き戻しを行う際は、巻き戻しノブが下がっていることを確認してください（巻き戻しノブが上がったままでは、フィルムの巻き戻しができません）。

…フィルムを手動で巻き戻すこともできます。 ☞ P.100

…巻き戻し中は、フィルムカウンターにカウントダウンされたフィルムコマ数が表示されます。

●撮影中誤ってR1ボタンをセットしてしまった場合は、シャッターボタンを半押しすると復帰させることができます。この場合、シャッター幕は開かずにフィルムが1コマ送られてしまいますのでご注意ください。

13 E表示の点灯を確認する。

【巻き戻し完了表示】

…フィルムカウンターに“E”が表示されると巻き戻しは完了です。

巻き戻し途中でモーターが停止した場合は

●裏ぶたを開けずに、電池容量をチェックし、“▭”が点滅している場合、または全表示が消灯している場合は、いったん電源をOFFにして電池を交換した後、電源をONにして再度巻き戻し操作を行ってください。
巻き戻しクランクを使って、手動で巻き戻すこともできます。 ☞ P.100

14 裏ぶたを開け、フィルムを取り出す。

…裏ぶたロックレバー①を▷マーク方向に押しながら、巻き戻しノブ②を引き上げます。

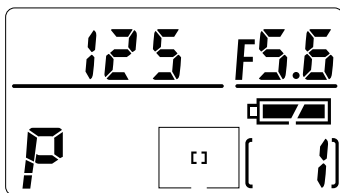
●フィルムの出し入れは直射日光の当たらないところで行ってください。直射日光によってフィルムが感光する場合があります。

基本的な使い方

撮影状況や撮影目的に応じて
露出モードや測光モードなどの基本的な機能を
上手に活用してください。

ツーボタンリセット機能について

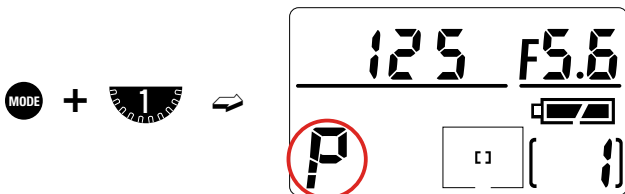
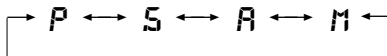
2つのボタンを同時に押す「ツーボタンリセット」操作をすれば、各機能を下記の状態にすることができます。

ツーボタンリセットの仕方

■ツーボタンリセット操作をした後の状態

- 露出モード………………………… P(プログラムオート) ☞ P.46
- AFエリアモード ……………… [ ](シングルエリアAFモード) ☞ P.53
- フォーカスエリア……………… [ ](中央) ☞ P.54
- シンクロモード ……………… (先幕シンクロ) ☞ P.116
  (SB-26、25、24使用時は、スピードライト側の設定が優先されます。)
- プログラムシフト……………… 解除されます。
- 露出補正 ………………………… 0.0になります。
- オートブラケティング ………… 撮影設定値と機能が解除されます。
- 多重露出撮影 …………………… 解除されます。
- シャッタースピードのロック …… 解除されます。
- 絞り値のロック ……………… 解除されます。
- フォーカスエリアのロック …… 解除されます。
- カスタムセッティング機能 …… 初期設定状態にリセットされます(メニューナンバー0を除く)。 ☞ P.87
- マルチコントロールバック MF-28の特殊機能 ……… 設定値は残りますが、設定は解除されます。

露出モードの選択

撮影状況や表現意図に合わせて、4つの露出モードから好みのモードが選べます。
…装着レンズによっては、露出モードに制限があります。 ☞ P.125/127/128

露出モードの設定方法

…希望する下記の露出モード表示を点灯させます。

P：プログラムオート

撮影状況に応じて、最適な露出となるようカメラが自動的にシャッタースピードと絞り値の組み合わせを制御します。簡単操作できれいな写真が撮れるモードです。

☞ P.37

S：シャッター優先オート

シャッタースピードをセットすれば、絞りはカメラが自動制御します。スポーツなどで被写体の一瞬の動きを写し止めるなど、シャッタースピードを重視した露出決定ができます。 ☞ P.60

A：絞り優先オート

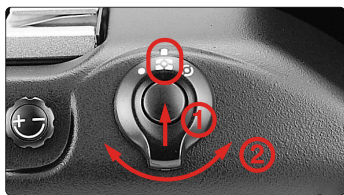
絞り値をセットすれば、シャッタースピードはカメラが自動制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をぼかすなど、被写界深度を考慮した露出決定ができます。
☞ P.62

M：マニュアル

シャッタースピードも絞り値も、撮影者が意図的にセットできるので、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。 ☞ P.64

測光モードの選択

撮影目的や光の状況に合わせて、3つの測光モードから好みのモードが選べます。
…装着レンズによっては、測光モードに制限があります。 ☞ P.125/127/128

測光モードの設定方法

…ロックボタン①を押しながら測光モードセレクトダイヤル②を回し、希望する測光モード表示を指標に合わせます。

：3D-RGBマルチパターン測光（DP-30使用時）

測光画素数1005（横67×縦15）のCCDセンサーから得られる画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定します。
特に、明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が、画面全体を大きく占めている場合などにはより威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。
…DタイプおよびGタイプニッコールレンズ以外のAFレンズ装着時は、レンズからの距離情報を用いないRGBマルチパターン測光となります。
●マルチパターン測光は、CPU内蔵ニッコールレンズ装着時のみ可能です。
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時にマルチパターン測光に設定してある場合は、自動的に中央部重点測光に切り換えて制御します。

⦿：中央部重点測光

ファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定します。
φ12mmの円内の露出を基準に撮影したい場合に適しています。

CUSTOM 中央部重点測光設定時の測光範囲、または測光方式を、下記のように変更できます（CPU内蔵ニッコールレンズ装着時のみ）。 ☞ P.91

- φ8mm、12mm、15mm、20mmのいずれかの中央部重点測光
- 画面全体の平均測光
- F5フォトセクレタリー（AC-1WJまたはAC-1MJ）を用いて設定した1mmきざみの範囲での中央部重点測光
（※F5フォトセクレタリーの販売は2002年3月末に終了いたしました）

●：スポット測光

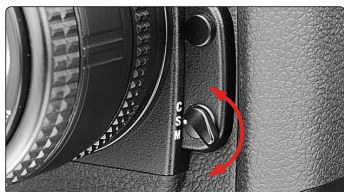
フォーカスエリアに重なるφ4mm（全画面の約1.5%）に相当する部分を測光して露出値を決定します。
逆光時やコントラストの差が激しいときなど、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準に撮影したい場合に適しています。測光部分は、選択されているフォーカスエリアに連動します（DP-30、CPU内蔵ニッコールレンズ、EC-Bスクリーン、EC-Eスクリーン使用時）。 ☞ P.154

●EC-Bスクリーン、EC-Eスクリーン以外はφ6mm（全画面の約3.3%）に相当する部分を測光します。また、この場合、フォーカスエリアの連動はありません。

基本的な使い方

フォーカスモードの選択

フォーカスモード（**C**・**S**・**M**）のセット位置によって、オートフォーカス、またはマニュアルフォーカスによるピント合わせ方法が選べます。
…装着レンズによっては、フォーカスモードに制限があります。 ☞ P.125/127

フォーカスモードの設定方法

…フォーカスモードセレクトダイヤルを回し、希望するフォーカスモード表示に指標を合わせます。

S：シングルAFサーボ

●（合焦表示）が点灯しているときだけシャッターをきることができるフォーカス優先のAFモードです。
シャッターボタンを半押しして、被写体にピントが合うとファインダー内に“●”表示が点灯します。
…“●”表示が点灯した時点でフォーカスロックがかかり、シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます（フォーカスロック撮影 ☞ P.70）。
…被写体が動いている場合は、P.51「予測駆動フォーカスについて」に記載してある条件でシャッターをきることができます。

C：コンティニュアスAFサーボ

ピント表示（ピントが合う合わない）にかかわらず、シャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先のAFモードです。
…いったんピントが合ってもフォーカスロックせずに、シャッターボタンを半押ししている間は、被写体の動きに応じて常にピントを追い続けます。

CUSTOM フォーカスモードの**S**をレリーズ優先のAFモードに、フォーカスモードの**C**をフォーカス優先のAFモードに変更できます。 ☞ P.88

予測駆動フォーカスについて

カメラのフォーカスモードがAFモードの**S**または**C**に設定されているときに、動いている被写体をカメラが認識すると、このカメラは自動的に予測駆動フォーカス機能が働きます。
予測駆動フォーカスは、被写体がカメラに向かって近づいてくる場合や、遠ざかっていく場合等に、その被写体の次の動きを予測してピント合わせをする機能です。
…通常、フォーカス優先のAFモード（**S**）に設定されているときは、“●”表示が点灯していなければシャッターはきれませんが、予測駆動フォーカス時は、動いている被写体にフォーカスフレームを重ねながら、シャッターボタンを押し続けると、ピント表示にかかわらず、ピントが合うと判断した瞬間にシャッターがきれます。

ピント警告表示について

AFモード時はファインダー内に下記のピント警告表示をします。
▶ ◀ 点滅：オートフォーカスでピント合わせができないとき点滅します。
…この場合、P.141の方法でピント合わせをしてください。
▶ 点灯：目的の被写体よりも手前にピントが合っているとき（前ピン表示）点灯します。
◀ 点灯：目的の被写体よりも後方にピントが合っているとき（後ピン表示）点灯します。

CUSTOM フォーカスモードが**S**または**C**のときに表示される、前ピン“▶”・後ピン“◀”表示を点灯させないようにできます。 ☞ P.93

レンズ使用上の注意

下記のいずれかのレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。
このような場合は、マニュアルフォーカス（☞ P.52）によりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

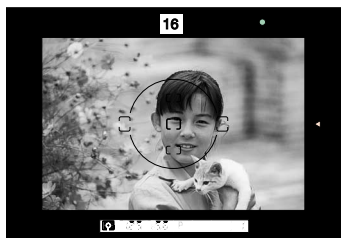
- Ai AF 28～85mm F3.5～4.5S
- Ai AF 28～85mm F3.5～4.5S＜New＞
- Ai AF 35～70mm F2.8S
- Ai AF 80～200mm F2.8S

M：マニュアル

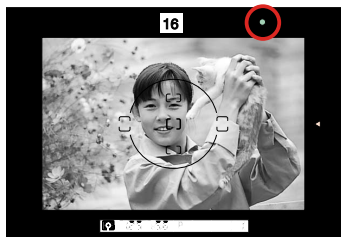
フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にセットした場合は、撮影者自身がファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせる「マニュアルによるピント合わせ」と、ファインダー内のピント表示を参考にピントを合わせる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。

…いずれの場合も、ピント表示の状態にかかわらず、シャッターボタンを押し込めばいつでもシャッターをきることができます。

Mにセットしたときの距離リングによるピント合わせの方法

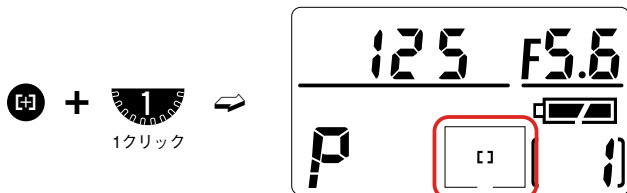
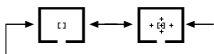
[マニュアル（手動）によるピント合わせ]

ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように、撮影者自身がレンズの距離リングを手動で回して、ピントを合わせます。

●A-M切換えのできるレンズを使用するときは、レンズ側を必ず「M」にセットしてください。

[フォーカスエイドによるピント合わせ]

シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に“●”表示が点灯するように、撮影者自身がレンズの距離リングを手動で回して、ピントを合わせます。

…ファインダー内に“▶”表示が点灯している時は、目的の被写体よりも手前にピントが合っています。“◀”表示が点灯しているときは、目的の被写体よりも遠くにピントが合っています。いずれの場合も、レンズの距離リングを回して“●”表示を点灯させてください。

AFエリアモードの切り換えによって、選択されたフォーカスエリアのみで的確にピントを検出する「シングルエリアAF」モードと、動きのある被写体に対応することが可能な「ダイナミックAF」モードが選べます。
…被写体の状況やフォーカスエリアのセット位置に応じて、効率的なピント合わせが行えます。

AFエリアモードの設定方法

上記の操作でダイヤルを1クリックするごとに表示は次のように切り換わります。

●選択してあるフォーカスエリアのセット位置によって表示状態が異なります。「シングルエリアAF」モード選択時は、選択してあるフォーカスエリア[ ]のみが表示され、「ダイナミックAF」モード選択時は、さらに ✢ が点灯表示されます。

[ ]：シングルエリアAFモード

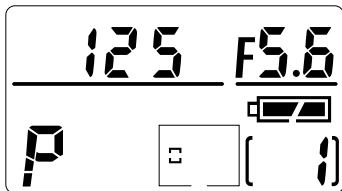
5つあるフォーカスエリアの中から、選択されている1つのフォーカスエリアだけを測距してピントを検出するモードです。
…選択したフォーカスエリア単独で、正確にピント合わせをしたいときなどに威力を発揮します。

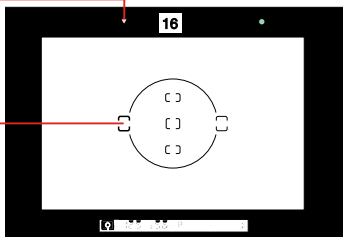
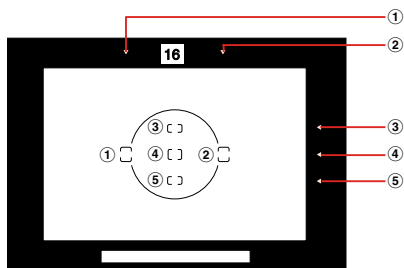
[✢]：ダイナミックAFモード

選択したフォーカスエリアから、ピントを合わせたい被写体が一時的に外れてしまった場合には、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを検出します（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。
…サッカー競技など、複雑に動く被写体を正確に1つのフォーカスエリアに捉え続けられない場合に便利です。

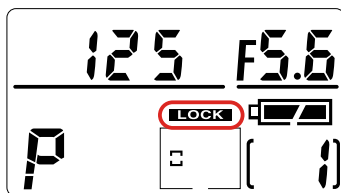
フォーカスエリアの選択

F5には、広い被写体域をカバーできる5つのフォーカスエリアがあります。
…被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、表現意図に沿ったフレーミングで画面構成が行え、フォーカスロックの手間が省けます。

フォーカスエリアの選択方法

…フォーカスエリアセレクターの上下左右が押せるようになっています。半押しタイマーがONの場合のみ押された方向にフォーカスエリアが移動しますので、ピントを合わせたい位置や構図に合わせて選択できます。
例えば、フォーカスエリアが左側にあるときに上に押すことによって斜め上に移動させることや、右側にあるときに下に押して斜め下に移動させることができます。
…選択されているフォーカスエリアは、半押しタイマー作動中、上面表示パネルとファインダー内で確認できます。

ファインダーを覗いたまま、選択してあるフォーカスエリアが素早く確認できます。

シャッターボタンを半押しすると、選択してあるフォーカスエリアに対応したフォーカスエリアインジケーターも表示され、ファインダーを覗いたまま、被写体の状況と選択してあるフォーカスエリア位置が素早く確認できます。
…フォーカスエリアの移動に連動して、フォーカスエリアインジケーターは次のように表示されます。

例えば、① のフォーカスエリアを選ぶと ① のフォーカスエリアインジケーターが、② のフォーカスエリアを選ぶと ② のフォーカスエリアインジケーターが点灯します。

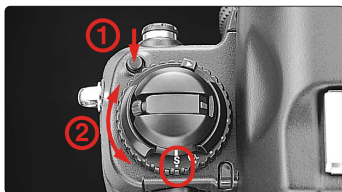
…AFエリアモード（☞ P.53）の設定により、選んである1つのフォーカスエリアからのピント情報を基にピントを検出する「シングルエリアAF」モードと、選んである1つのフォーカスエリアから被写体が外れた場合にも、他の4つでサポート可能な「ダイナミックAF」モードが選べます。

LOCK 下記の操作でフォーカスエリアをロックできます。

ロックの解除方法

同じ操作をもう一度行って、上面パネルの **LOCK** を消灯させてください。

フィルム給送モードの選択

撮影目的や撮影条件に合わせて、4つのフィルム給送モードから好みのモードが選べます。

フィルム給送モードの設定方法

…ロックボタン①を押しながら給送モードセレクトダイヤル②を回し、希望するフィルム給送モード表示を指標に合わせます。

…ｾにセットすると、セルフタイマーモードとなります。 ☞ P.82

S ：1コマ巻き上げ

シャッターをきるごとに、1コマずつ巻き上げ。

CL ：低速連続巻き上げ

シャッターボタンを押し続けると、約3コマ／秒（約3コマ／秒）で連続巻き上げ。

CH ：高速連続巻き上げ

シャッターボタンを押し続けると、約7.4コマ／秒（約8コマ／秒）で連続巻き上げ。

CS ：超低速連続巻き上げ

シャッターボタンを押し続けると、約1コマ／秒（約1コマ／秒）で連続巻き上げ。
巻き上げ音が小さくなり、静かな場所で撮影するときに便利です。

…巻き上げ速度は、フォーカスモードC、露出モードM、シャッタースピード1/250秒以上、常温（20℃）、単3形アルカリ乾電池または単3形リチウム電池、（　）内はニッケル水素電池MN-30使用時の1～36枚撮影時における平均値です。

CUSTOM フィルムの巻き上げ速度を、下記のように変更できます。 ☞ P.90

CH：約6コマ／秒
CL：約4コマ／秒　または　約5コマ／秒

露出警告表示について

上面表示パネルおよびファインダー内表示に次の警告が表示された場合は、下記に従って対応してください。

■FEE（点滅）

●露出モードがP、Sの場合
Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時は、レンズの絞りリングが最小絞りにセットされていません。
・レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値の絞り値）にしてください。

☞ P.37/60

■HIまたはLo（点灯）

●露出モードがPの場合（シャッタースピード表示部に点灯）
被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
・Lo：スピードライトを使用してください。

●露出モードがSの場合（絞り値表示部に点灯）
・HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
・Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、スピードライトを使用してください。

●露出モードがAの場合（シャッタースピード表示部に点灯）
・HI：より大きい数値の絞り値にし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
・Lo：より小さい数値の絞り値にし、それでも警告表示が消えないときは、スピードライトを使用してください。

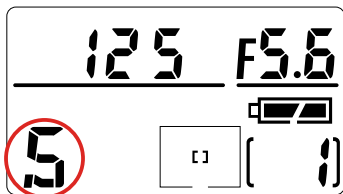
応用的な使い方

このカメラの基本的な機能や補助的な機能を活用した
いろいろな撮影方法を説明しています。

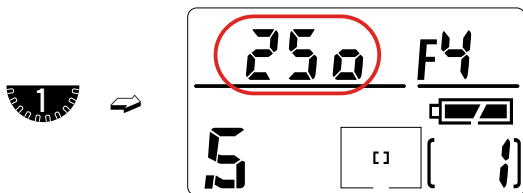
シャッター優先オート（S）による撮影

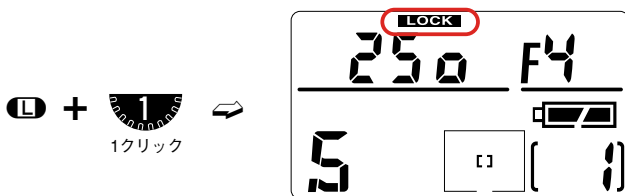
1 レンズの絞りリングを最小絞りにする（Gタイプニッコールレンズを除く）。

●Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時に最小絞り（最も大きい数値の絞り値）にセットされていない場合は、ファインダー内と上面表示パネルに“FEE”表示が点滅して警告します。

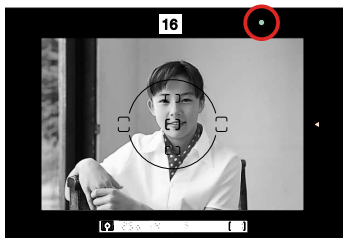
2 露出モードをSにする。

NON-CPU CPU内蔵ニッコール以外のレンズ使用時は設定できません。
露出モードをSにすると、自動的に絞り優先オート（A）で制御されます。

☞ P.127/128

3 シャッタースピードをセットする。

…シャッタースピードは、bulbを除くX（1/250秒）、30秒〜1/8000秒の間（1/3段ステップ）でセットできます。

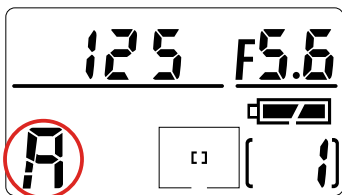
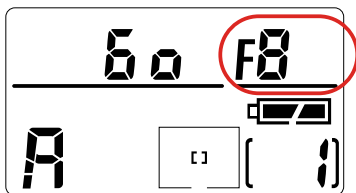
LOCK セットしたシャッタースピードは、下記の操作でロックできます。

ロックの解除方法

同じ操作をもう一度行って **LOCK** 表示を消灯させてください。

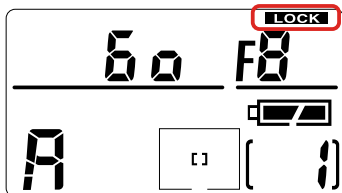
4 ピント表示を確認して、撮影する。

…ファインダー内に警告が表示された場合は ☞ P.51/57

絞り優先オート（A）による撮影

1 レンズの絞りリングを最小絞りにする（Gタイプニッコールレンズを除く）。

2 露出モードをAにする。

3 絞りをセットする。

…最小絞りにした後やGタイプニッコールレンズを装着後、サブコマンドダイヤルを回すと、絞り値は開放絞り〜最小絞りの間で、1/3段ステップでセットできます。

…Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時に絞り値のセットは、レンズの絞りリングでも可能です。この場合、ファインダー内表示、上面表示パネルにはF--が表示され、絞り値は表示されませんので、絞り値は、ファインダー内の絞り直読窓で確認してください。なお、絞りリングを最小絞りにすると、サブコマンドダイヤルでセットした絞り値が優先されますのでご注意ください。絞りリングを常用される場合は、あらかじめカスタムセッティング（P.93 メニューナンバー22）でサブコマンドダイヤルによる絞り値の設定を無効にすることをおすすめします。

LOCK サブコマンドダイヤルでセットした絞り値は、下記の操作でロックすることができます。

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時に絞り値をロックした場合でも、レンズの絞りリングで絞りの設定を変えることができます。

ロックの解除方法

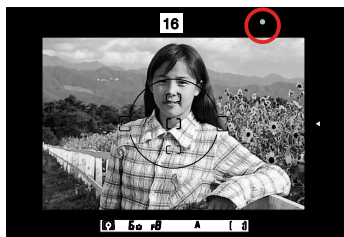
同じ操作をもう一度行って **LOCK** 表示を消灯させてください。

CUSTOM Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時にサブコマンドダイヤルによる絞り値の設定を無効にして、レンズの絞りリングによる絞り設定のみ可能にできます。 ☞ P.93

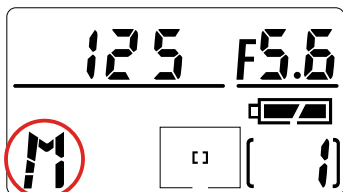
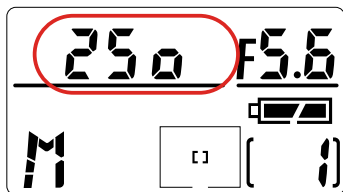
NON-CPU CPU内蔵ニッコール以外のレンズ使用時は、絞りはレンズの絞りリングでセットします。この場合、ファインダー内表示、上面表示パネルにはF--が表示され、絞り値は表示されませんので、ファインダー内の絞り直読窓で確認してください。
●非Ai方式レンズを使用する場合は、P.130の改造が必要です。

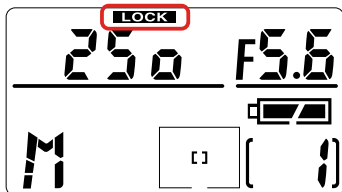
4 ピント表示を確認して、撮影する。

…ファインダー内に警告が表示された場合は ☞ P.51/57

応用的な使い方

マニュアル（M）による撮影

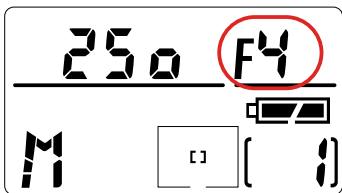
1 レンズの絞りリングを最小絞りにする（Gタイプニッコールレンズを除く）。

2 露出モードをMにする。

3 シャッタースピードをセットする。

…シャッタースピードは、bulbおよびX（1/250秒）、30秒〜1/8000秒間（1/3段ステップ）でセットできます。

LOCK セットしたシャッタースピードを、下記の操作でロックできます。

ロックの解除方法

同じ操作をもう一度行って **LOCK** 表示を消灯させてください。

CUSTOM 通常30秒まで設定できる低速側のシャッタースピードを、最長30分まで延長できます。 ☞ P.92

4 絞りをセットする。

…最小絞りにした後やGタイプニッコールレンズを装着後、サブコマンドダイヤルを回すと、絞り値は開放絞り～最小絞りの間で、1/3段ステップでセットできます。

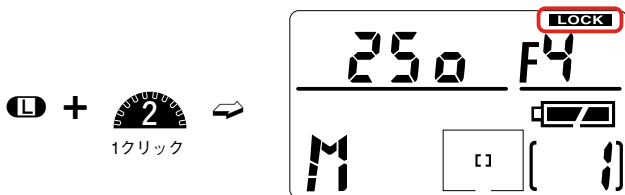
…Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時に絞り値のセットは、レンズの絞りリングでも可能です。この場合、ファインダー内表示、上面表示パネルにはF- -が表示され、絞り値は表示されませんので、絞り値は、ファインダー内の絞り直読窓で確認してください。なお、絞りリングを最小絞りにすると、サブコマンドダイヤルでセットした絞り値が優先されますのでご注意ください。絞りリングを常用される場合は、あらかじめカスタムセッティング（P.93 メニューナンバー22）でサブコマンドダイヤルによる絞り値の設定を無効にすることをおすすめします。

AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

●AFマイクロレンズをF5カメラに装着し、外部露出計による測光値を元に、絞り値をカメラのサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合のみ、露出倍数を考慮した補正が必要となります。

次ページへ続く

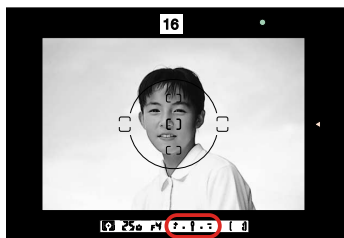
マニュアル（M）による撮影—つづき—

LOCK セットした絞り値を、下記の操作でロックできます。

ロックの解除方法

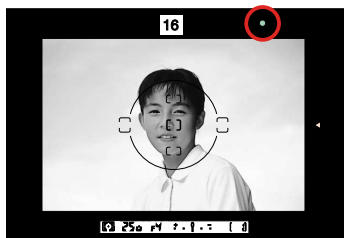
同じ操作をもう一度行って **LOCK** 表示を消灯させてください。

CUSTOM Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着時にサブコマンドダイヤルによる絞り値の設定を無効にして、レンズの絞りリングによる絞り設定のみ可能にできます。 ☞ P.93

NON-CPU CPU内蔵ニッコール以外のレンズ使用時は、絞りはレンズの絞りリングでセットします。この場合、ファインダー内表示、上面表示パネルにはF- -が表示され、絞り値は表示されませんので、ファインダー内の絞り直読窓で確認してください。
●非Ai方式レンズを使用する場合は、P.130の改造が必要です。

5 露出インジケーターを参考に、シャッタースピードと絞りを調節する。

■露出インジケーターの見方（bulb時は点灯しません）

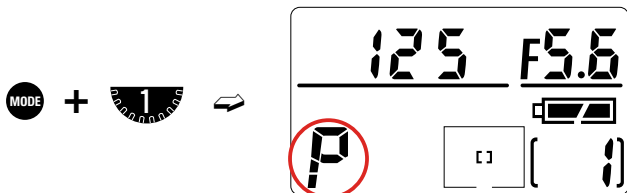
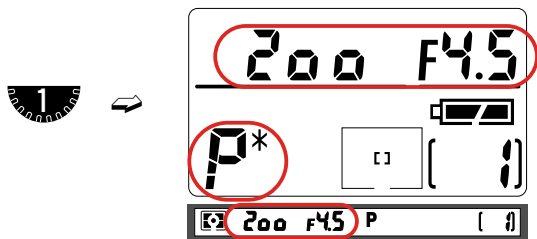
［適正露出の状態］　［2/3段アンダーの状態］　［2段以上オーバーの状態］

6 ピント表示を確認して、撮影する。

プログラムシフト撮影

プログラムオート（P）時に、コマンドダイヤルを回すだけで、露出を一定にしたまましャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができます（これをプログラムシフトと呼びます）。
この機能により、プログラムオートのまま、シャッタースピードや絞り値を重視した露出決定ができます。
プログラムオートによる撮影方法は ☞ P.37
…シャッタースピードと絞り値は1/3段ステップでシフトできます。

操作手順

1 レンズの絞りリングを最小絞りにする（Gタイプニッコールレンズを除く）。

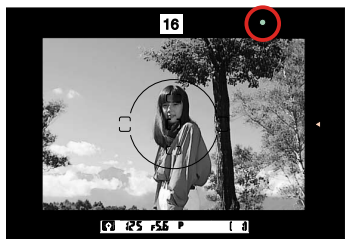
2 露出モードをPにして、シャッターボタンを半押しする。

3 希望するシャッタースピード、絞り値を選ぶ。

…プログラムシフトで選択できるシャッタースピードと絞り値には限界があります。
…プログラムシフト中は上面表示パネルに“P*”が点灯します。
●プログラムシフトは下記の場合に解除されます。
・カメラの電源をOFFにしたとき。
・露出モードを切り換えたとき。
・「ツーボタンリセット」操作を行ったとき。

フォーカスロック撮影

オートフォーカス時は、フォーカスフレーム内の被写体にピントが合います。
通常の撮影ではF5独自の5つのフォーカスエリアでカバーできますが、ピントを合わせる位置と構図によってはカバーしきれない場合があります。このようなときフォーカスロック撮影が有効です。
…AFモードが**S**の場合と**C**の場合とでは操作手順が異なります。

S：シングルAFサーボ時の操作手順

1 フォーカスモードを**S**にする。

2 撮りたいものにフォーカスフレームを重ねて、シャッターボタンを半押しする。

…ピントが合うと“●”表示が点灯し、シャッターボタンの半押し中、ピントはそこで固定されます。

3 ●（合焦）表示が点灯したら、シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影する。

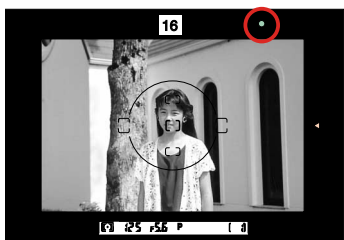
● "●"表示の点灯後は、撮影距離を変えないでください。ピントが合わなくなります。

CUSTOM シャッターボタンの半押しではレンズ駆動をしないようにして、AF作動ボタンでピントを合わせた後、レンズを駆動することなくフォーカスロック状態でレリーズ可能にできます。 ☞ P.89/97

C：コンティニュアスAFサーボ時の操作手順

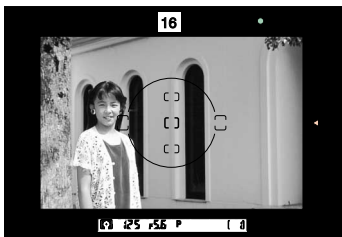
…フォーカスモードが**S**の場合でも、この操作手順（操作手順2以降）でフォーカスロックをすることができます。

1 フォーカスモードを**C**にする。

2 撮りたいものにフォーカスフレームを重ねて、シャッターボタンを半押しする。

3 ●（合焦）表示が点灯したら、シャッターボタンを半押ししたままAE/AFロックボタンを押す。

…シャッターボタンから指を離しても、AE/AFロックボタンを押している間、ピントは固定されます。
…AE/AFロックボタンを押すと、AEロックも同時に行われます。 ☞ P.74

CUSTOM AE/AFロックボタンを押すと、通常はAEロックとフォーカスロックが同時に行われますが、フォーカスのみをロックできます。 ☞ P.93

4 AE/AFロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する。

● "●"表示の点灯後は、撮影距離を変えないでください。ピントが合わなくなります。
…シャッターをきった後も、AE/AFロックボタンを押した状態のままシャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま何度でも撮影できます。

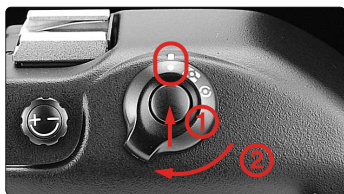
CUSTOM シャッターボタンの半押しではレンズ駆動をしないようにして、AF作動ボタンでピントを合わせた後、レンズを駆動することなくフォーカスロック状態でレリーズ可能にできます。 ☞ P.89/97

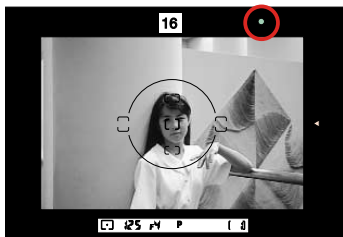
AEロック撮影

適正露出で撮りたい部分に合わせた露出を、固定したまま撮影できます。同じ露出のままでポーズや構図を変えて撮影する場合などに、AEロック撮影が有効です。

…露出モードはマニュアル（M）以外に設定してください。
…F5のAEロック撮影は、AEロックとフォーカスロックが同時に行われます。

CUSTOM　AE/AFロックボタンを押すと、通常はAEロックとフォーカスロックが同時に行われますが、AEロックのみが行えます。　☞ P.93

1 測光モードをセットする。

…測光モードはスポット測光をおすすめします。
● AEロック中は、測光モードダイヤルを動かしても測光モードは変わりません。

2 露出を合わせたいものにフォーカスフレームを重ねて、シャッターボタンを半押しする。

…選択してあるフォーカスフレームを重ねた部分（中央部重点測光の場合は中央部）が適正となる露出に制御されます。

…フォーカスモードが**S**または**C**の場合は、AEロックとフォーカスロックが同時に行われますので、●（合焦）表示の点灯を確認してください。

…フォーカスモードが**M**の場合は、手動でピントを合わせてください。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押す。

…AE/AFロックボタンを押している間カメラが露出値を記憶していますので、構図を変えても露出は変わりません。

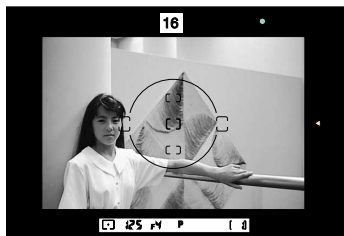
…露出モードが*P*の場合は、AEロック中もプログラムシフトが可能です。 ☞ P.68

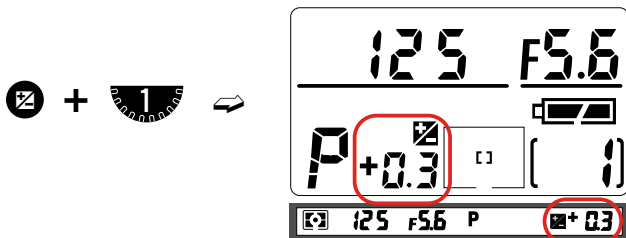
…露出モードが*S*の場合は、シャッタースピードの変更、*A*の場合は、絞り値の変更が可能です。
変更した場合の露出表示は、それぞれ制御される絞り値、シャッタースピードを表示します。

次ページへ続く

CUSTOM シャッターボタンの半押しで、AEロックができます。
この場合は、AE/AFロックボタンを押す操作は不要です。 ☞ P.89

CUSTOM 通常は輝度値でロックされる露出値を、シャッタースピードまたは絞り値でロックできます。 ☞ P.89

4 AE/AFロックボタンを押したまま、構図を変えて撮影する。

撮影目的や撮影条件に合わせて、±5段（1/3段ステップ）の露出補正ができます。
…露出補正は、いずれの露出モードでも可能です。
…被写体に比べて背景が明るい場合は十側に、暗い場合は一側に補正してください。
●露出補正とオートブラケティングを併用した場合は、両方の設定値が加算された値で制御されます。

設定方法

…希望する補正値をセットします。
…補正値セット後は、上面表示パネルとファインダー内に露出補正マーク“⊠”が点灯します。
…シャッタースピードや絞り値表示、および露出インジケーターには、補正後の制御値を表示します。

ファインダー内での補正値の確認方法

…外部表示パネルには常に補正値が表示されます。

解除方法

設定時と同じ操作で補正値を“0.0”にセットします。

オートブラケティング

露出決定が難しい撮影状況などで、適正露出を得るために段階的に露出をズラした撮影ができます。

…オートブラケティングは、すべての露出モードで可能です。

…Pモード時はシャッタースピードと絞り値が変化し、Sモード時は絞り値が、Aモード時およびMモード時はシャッタースピードが変化します。

●いずれの場合も、スピードライト使用時は、スピードライトで照らされた主要被写体と定常光で照らされている背景の両方に補正が行われます。

CUSTOM 通常はAEブラケティングとSBブラケティングが同時に行われるオートブラケティングを、AEブラケティングのみ、またはSBブラケティングのみにできます。 ☞ P.93

●AEブラケティング時は、シャッタースピード、絞り値が変化し、SBブラケティング時は、TTL調光レベルが変化します。

…AEブラケティングのみにすると、スピードライト使用時もTTL調光レベルは変化しません。

…SBブラケティングのみにすると、シャッタースピードと絞り値は変化しません。

CUSTOM Mモード時に変化する要素を下記のように変更できます。 ☞ P.91

- シャッタースピードと絞り値を変化
- 絞り値を変化
- TTL調光レベルのみ変化

設定方法

1 オートブラケティングモードにする。

…背面表示パネルにブラケティングマーク“BKT”と、前回設定時のブラケティングバーグラフ／撮影枚数／補正ステップが点灯します。

…設定後、上面表示パネルに“BKT”が点灯し、半押しタイマーON時には、上面表示パネルとファインダー内に露出補正マーク“☒”が点滅します。

2 撮影枚数と補正ステップの組み合わせを選択する。

…ブラケティング情報表示とブラケティングバーグラフを見ながら、撮影枚数と補正ステップの組み合わせを下記の9とおりの中から選びます。

撮影枚数と補正ステップ	ブラケティングバーグラフ	撮影順序
2F 0.3	+	0／+0.3
2F 0.7	+	0／+0.7
2F 1.0	+	0／+1.0
2F 0.3	−	0／-0.3
2F 0.7	−	0／-0.7
2F 1.0	−	0／-1.0
3F 0.3	+ −	0／-0.3／+0.3
3F 0.7	+ −	0／-0.7／+0.7
3F 1.0	+ −	0／-1.0／+1.0

…シャッターをきるごとに、シャッタースピード、絞り値は、補正された制御値を表示します。
…撮影は、補正なし、マイナス補正、プラス補正の順に行われます。

CUSTOM 撮影される順序を、マイナス側からプラス側へとなるよう変更できます。
☞ P.88

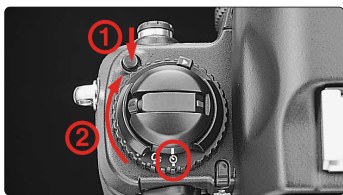
解除方法

…背面表示パネルの“BKT”を消灯させます。
…BKTボタンから指をはなすと、背面表示パネルのブラケティングバーグラフ／撮影枚数／補正ステップは消灯します。
…解除した場合でも、撮影枚数と補正ステップの設定値は保持されます。

オートブラケティング時の注意事項

- ●オートブラケティングと露出補正（☞ P.77）を併用した場合、両方の補正値が加算されたブラケティング撮影が行われます。
- ●シャッタースピードが“bulb”のときにもTTL調光レベルを変化させた撮影が可能です。
- ●フィルム給送モードが“CL”、“CH”、“CS”のときにシャッターボタンを押し続けると、設定した枚数の撮影が終了した時点で自動的に停止します。
- ●オートブラケティング撮影中に撮影フィルムが終端になった場合は、フィルム交換後に、残りのオートブラケティング撮影を続行できます。
- ●セルフタイマー撮影時には、設定した撮影枚数のオートブラケティング撮影が、1枚ずつ行われます。
- ●MF-28でオートブラケティングが設定されているときは、MF-28からの設定が優先され、カメラ側では設定できません。
  また、カメラ側でオートブラケティングが設定されているときに、MF-28で設定した場合は、カメラ側の設定は解除されます。
- ●カスタムセッティング機能によって、低速側に40秒以上のシャッタースピードが設定されている場合は、オートブラケティングによるシャッタースピードの補正は行われません。
- ●露出モードが“M”のとき、シャッタースピードがXに設定されている場合は、オートブラケティングによるシャッタースピードの補正は行われません。
- ●F5フォトセクレタリーを接続している場合は、カメラ側のオートブラケティングは使用できません。
  機能のより充実しているF5フォトセクレタリーのオートブラケティングをご使用ください。
  （※F5フォトセクレタリーの販売は2002年3月末に終了いたしました）

記念撮影など、撮影者自身も被写体として加わりたいときご利用ください。
…セルフタイマー時間は10秒間です。
CUSTOM セルフタイマー時間を2秒〜60秒の間で、1秒刻みで変更できます。 ☞ P.91

1 セルフタイマーモードにする。

…ロックボタンを押しながら、給送モードセレクトダイヤルを回して“⏲”を指標に合わせます。

2 構図、ピント、露出等を確認して、シャッターボタンを押す。

- セルフタイマー撮影では、セルフタイマースタート時点のピントでシャッターがきれますので、シャッターボタンを押す前に、ピントを確認してください。

…セルフタイマー表示LEDが点滅し、撮影2秒前になると点灯に変わります。

- セルフタイマーの設定を解除する場合は、給送モードセレクトダイヤルを“⏲”以外の位置にセットしてください（撮影後も、自動的には解除されません）。

セルフタイマー撮影時の注意事項

●AFモードがフォーカス優先に設定されているときは、ピント表示の“●”が点灯していなければ、セルフタイマーは作動しません。
また、フォーカス優先に設定されている場合でも、いったんセルフタイマーが作動すると、その後にピントがはずれてしまってもシャッターがきれます。

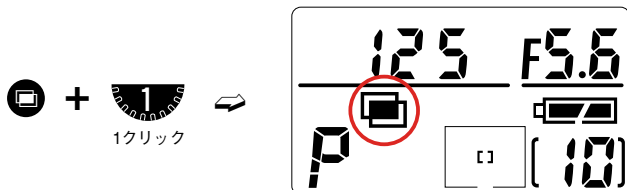
●シャッタースピードが“bulb”に設定されているときは、約1/250秒でシャッターがきれます。

ファインダーから目を離して撮影するときは

●オート露出（M以外）にしてファインダーから目を離して撮影するときは、ファインダー接眼部からの逆入光による測光への影響を避けるため、シャッターボタンを押す前に、写真のように、アイピースシャッターで接眼部を閉じてください。

多重露出撮影

多重露出機構により、同一コマ上に画面を何回も重ねて撮影することができます。
…多重露出撮影は、いずれの露出モードでも可能です。
●多重露出モードが設定されていないときに撮影したコマには、2回目の露光（多重露出）を行うことはできません。

1 多重露出モードにする。

…上面表示パネルに多重露出マーク“▣”を点灯させます。

2 状況に応じて露出補正をする。

…多重露出はフィルムの同一コマ上に何度も露出を与えますので、バックや被写体が重なっていく場合は、多重露出回数に応じた露出補正（☞ P.77）を事前にしておく必要があります。

[一般的な補正量の目安]

多重露出の回数	補正量のセット
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0
8〜9回	-3.0

●実際の補正量は条件によって変わりますので、テスト撮影をおすすめします。
●バックが完全に黒く、被写体が画面内で重ならないような場合は、露出補正を行わず、各露出ごとに適正露出で撮影するのが基本です。
●多重露出の際、画面がわずかにずれることがあります。特にフィルムの最初と最後のコマはフィルムの巻きぐせがありますので、おすすめできません。

3 構図を決め、ファインダー内表示を確認して、シャッターボタンを押す。

…1回目の露光が行われます。フィルムの給送は行われず、次のレリーズにより多重露出撮影となります。

…1回目の露光が行われると上面表示パネルの多重露出マーク"▣"は点滅状態になり、2回目の露光後にフィルムの給送が行われて、多重露出モードは解除されます("▣"は消灯します)。

…次の多重露出撮影を行うときは、再度多重露出の設定を行ってください。

…同一コマに3回以上露光を重ねる、連続多重撮影を行う場合は、上面表示パネルの多重露出マーク"▣"が点滅するたびに手順**1**の操作(☞ P.84)を繰り返し、"▣"を点灯させてください。希望する多重露出回数の最後の露光は、"▣"が点滅したままでシャッターをきります。

CUSTOM 手動で上面表示パネルの多重露出マーク"▣"を消灯させない限り、同一コマに連続して多重撮影が行えます。 ☞ P.90
この場合は、希望回数の多重露光終了後、手順**1**(☞ P.84)と同じ操作でモードを解除すると、自動的に1コマ給送します。

多重露出撮影時の注意事項

- 希望回数の多重露出撮影が終了するまでフィルムカウンターのカウントアップは行われません。
- 別売りのMF-28、MF-27装着時にデータの写し込みを行った場合は、1回目の露光時に写し込みが行われ、2回目の露光時以降は行われません。
- 1回目の露光前に多重露出モードを解除するときは、手順**1**の操作(☞ P.84)に準じて上面表示パネルの多重露出マーク"▣"を消灯させてください。
- 多重露出モードを設定して1回目の露光を行った後は、多重露出モードを途中解除できませんので、レンズキャップ等でレンズ面をおおって1コマ空写しを行い、フィルムを給送させてください。

長時間露出［バルブ］撮影

露出モードがマニュアルのとき、シャッタースピードを“bulb”にセットしてシャッターボタンを押すと、押している間はシャッターが開いたままになります。

…夜景の撮影や天体撮影など、30秒を超える長時間露出撮影を行う場合は、“bulb”をご使用ください。また、その際に三脚のご使用をおすすめします。

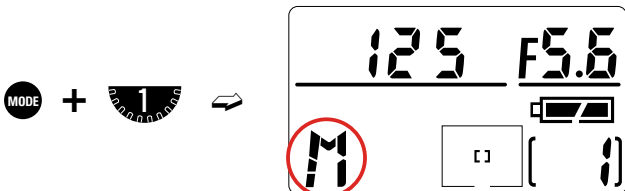
…シャッターボタンを指で押し続けるかわりに、リモートコード（別売り ☞ P.105）を使用すると、シャッターボタンをロックできます。

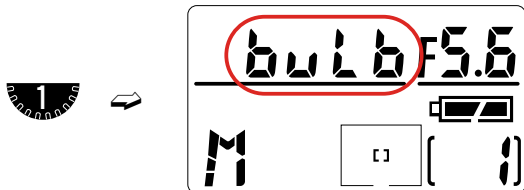
…長時間露出撮影を行う場合は、新品電池をご使用ください。

CUSTOM Mモード時に、通常30秒まで設定できる低速側のシャッタースピードを、最長30分まで延長できます。 ☞ P.92

CUSTOM バルブ露光中に外部警告LEDを点滅表示するようにできます。 ☞ P.90

設定方法

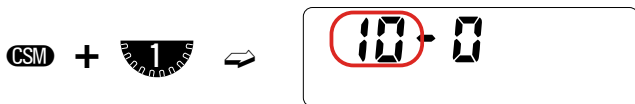
1 露出モードをMにする。

●MモードでbuLbに設定した後、露出モードをSにするとbuLb表示が点滅警告し、レリーズできません（点滅警告時は ☞ P.146）。

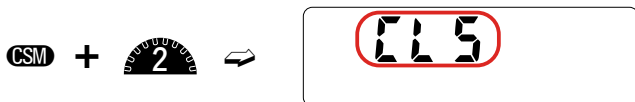
2 シャッタースピードをbuLbにする。

●以降の手順はマニュアルモード時の撮影手順に準じてください。 ☞ P.64

…低温時は電池の性能が低下しますので、連続撮影時間は短くなります（電池種類ごとの連続撮影時間については ☞ P.173）。

カスタムセッティング項目の機能を、撮影意図などに合わせてそれぞれ設定することにより、F5の制御方式や操作を、ご自分の最も使いやすい状態に変更できます。

設定方法

1 メニューナンバーを選択する。

…メニューナンバーは0から24まであります。

2 設定項目を選択する。

…メニューナンバー0が選択してある場合の“A”、“b”については ☞ P.88

…メニューナンバー1～24の“0”は「初期設定状態」を示し、“1”は「設定変更」を意味します（“1”を選択してノーマルに設定した場合は、初期設定状態となります）。

…P.90以降に白ヌキで記載してあるメニューナンバーで“1”を選択した場合は、複数ある変更項目の中から設定内容を選択して設定できます（選択してあるメニューナンバーで設定変更できる内容は、サブコマンドダイヤルを1クリック回すごとに切り換わります）。

…カスタムセッティングが1項目でも設定されると、背面表示パネルに“**CUSTOM**”が点灯します（設定中の表示内容については ☞ P.88～93）。

解除方法

- 各機能を1項目ごとに解除する場合は、手順1で解除したいメニューナンバーを選択し、手順2で設定内容を「0：ノーマル」にします（「1：変更」の設定項目にノーマルの記載がある場合は、ノーマルを選ぶと同様になります）。
- メニューナンバー1～24の機能を一括して解除する場合は、P.45の「ツーボタンリセット」操作で初期設定状態にできます。

メニューナンバー／設定項目と内容

0 メモリA、bの選択

［設定内容］　A：メモリAに記憶させる
　　　　　　　b：メモリBに記憶させる

…下記のメニューナンバー1〜24の機能を、ご自分が操作しやすいように設定を変えて［メモリA］、［メモリB］に各1通り（計2通りまで）記憶させておくことができます。

…記憶させる場合は、メニューナンバー0で記憶させておくメモリ“A”、“b”いずれかを選び、24項目の機能を好みの状態に設定します（設定されると自動的に“CUSTOM”が点灯し記憶されます）。
“A”選択時は〔メモリA〕に記憶され、“b”選択時は〔メモリB〕に記憶されます（設定変更も同操作で行えます）。

…記憶させた設定状態の呼び出しは、メニューナンバー0で記憶させたメモリ“A”、“b”のいずれかを選ぶだけで行え、24項目の設定が一括してできます。

●ツーボタンリセット時は、選択されているメモリ（“A” または “b”）の内容が全て初期状態になります。初期状態にリセットさせたくない内容の入っているメモリが選択されているときは、ツーボタンリセット操作を行わないよう注意してください。

1 コンティニュアスAFサーボ時のフォーカス優先 ☞ P.50

［設定内容］　0：レリーズ優先
　　　　　　　1：フォーカス優先

…通常はレリーズ優先のコンティニュアスAFサーボを、フォーカス優先にできます。

2 シングルAFサーボ時のレリーズ優先 ☞ P.50

［設定内容］　0：フォーカス優先
　　　　　　　1：レリーズ優先

…通常はフォーカス優先のシングルAFサーボを、レリーズ優先にできます。

3 オートブラケティング撮影時の補正順序の変更 ☞ P.79

［設定内容］　0：補正なし → マイナス側 → プラス側 の順
　　　　　　　1：マイナス側 → 補正なし → プラス側 の順

…通常は「補正なし・マイナス側・プラス側」の撮影順序を、「マイナス側・補正なし・プラス側」の順に変更できます。

4 シャッターボタンの半押し操作によるAFレンズ駆動 ☞ P.71/73/97

［設定内容］ 0：する（シャッターボタンの半押し操作でAFレンズを駆動させる）
1：しない（シャッターボタンの半押し操作でAFレンズを駆動させない）

…シャッターボタンを半押ししても、AFレンズが駆動（ピント合わせ）しないようにできます。
…［1：しない］を選択したときは、AFレンズ駆動はAF作動ボタンの操作でのみ可能となります。

5 AEロック時のロック値の変更 ☞ P.76

［設定内容］ 0：ノーマル（輝度値でロック）
1：シャッタースピードまたは絞り値でロック

…通常はAEロック後にシャッタースピードや絞り値を変えても露出は一定ですが、制御されるシャッタースピードまたは絞り値でロックできます。

6 コマンドダイヤルの回転方向の変更 ☞ P.20

［設定内容］ 0：ノーマル（変更しない）
1：逆回転にする

…コマンドダイヤルの回転方向を逆方向に変更できます。
…［1：逆回転にする］を選択すると、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルともに逆回転操作となります。

7 シャッターボタンの半押しによるAEロック ☞ P.76

［設定内容］ 0：しない
1：する

…シャッターボタンの半押しによって、AEロックを行えるようにできます。
…メニューナンバー5の「AEロックのロック値」の設定も反映されます。

8 裏ぶたを閉じる操作によるフィルム自動空送り ☞ P.35

［設定内容］ 0：しない
1：自動空送りする

…電源スイッチがONのとき、フィルムの先端を指標に合わせて裏ぶたを閉じると、シャッターボタンを押さなくても1コマ目まで自動空送りされるようにできます。

9 フィルム給送モードCH時のコマ速の変更 ☞ P.56

［設定内容］　0：ノーマル（8コマ／秒）
　　　　　　　1：変更　　CH8（ノーマル：8コマ／秒）・CH6（6コマ／秒）

…ニッケル水素電池使用時は、通常8コマ／秒のCHモード時のコマ速を、6コマ／秒に変更できます。
単3アルカリ電池、リチウム電池使用時は、通常7.4コマ／秒、変更後6コマ／秒になります。

10 フィルム給送モードCL時のコマ速の変更 ☞ P.56

［設定内容］　0：ノーマル（3コマ／秒）
　　　　　　　1：変更　　CL5（5コマ／秒）
　　　　　　　　　　　　　CL4（4コマ／秒）
　　　　　　　　　　　　　CL3（ノーマル：3コマ／秒）

…通常3コマ／秒のCLモード時のコマ速を、5コマ／秒、または4コマ／秒に変更できます。

※コマ速のデータはいずれもニッケル水素電池使用時のものです。

11 バルブ露光中の外部警告LED点滅 ☞ P.86

［設定内容］　0：ノーマル（点滅させない）
　　　　　　　1：点滅させる

…［1：点滅させる］を選択すると、バルブ露光中に外部警告LEDを点滅表示できます。

12 フィルム終端コマの指定 ☞ P.41

［設定内容］　0：ノーマル（指定しない）
　　　　　　　1：指定する　E35（35コマ）・E36（36コマ）・- -（ノーマル：指定しない）

…36枚撮りフィルムの撮影停止時点を、35枚目撮影終了時、または36枚目撮影終了時に指定できます。

13 多重露出撮影後の設定解除 ☞ P.85

［設定内容］　0：解除する
　　　　　　　1：解除しない

…通常の多重露出撮影では、1回目の露光後に多重露出の再設定操作をしないと、2回目の露光の終了と同時に自動的に設定が解除され、フィルムが1コマ分送られます。［1：解除しない］を選択すると、手動で設定を解除しない限り、3回、4回…と露光を重ねられます。

14 中央部重点測光時の重点測光範囲の変更 ☞ P.49

［設定内容］ 0：ノーマル （φ12mm部の重点測光）
1：変更 C 8（φ 8mm部の重点測光）
C 12（ノーマル：φ12mm部の重点測光）
C 15（φ15mm部の重点測光）
C20（φ20mm部の重点測光）
A （画面全体の平均測光）
PC （パソコンによる設定）

…中央部重点測光時の重点度を75％に固定したまま、画面中央φ12mmの重点測光範囲を、上記のように変更できます。また、画面全体の平均測光にも変更できます。F5フォトセクレタリーを用いて“PC”を選択すると、通常φ12mmの重点測光範囲をφ8〜φ20mmの範囲内でパソコンから1mmきざみで設定できます。
（※F5フォトセクレタリーの販売は2002年3月末に終了いたしました）

15 半押しタイマー時間の変更 ☞ P.29

［設定内容］ 0：ノーマル （8秒）
1：変更 L 4（4秒）・L 8（ノーマル:8秒）・L 16（16秒）・L 32（32秒）

…通常8秒の半押しタイマー時間を、上記のいずれかに変更できます。

16 セルフタイマー時間の変更 ☞ P.82

［設定内容］ 0：ノーマル （10秒）
1：変更 L 2〜L60（2秒〜60秒・1秒きざみ・ノーマル：L 10）

…通常10秒のセルフタイマー作動時間を、上記の範囲で変更できます。

17 Mモードでのブラケティング撮影時の可変要素の変更 ☞ P.78

［設定内容］ 0：ノーマル （シャッタースピードを変化）
1：変更 1 1A（シャッタースピード、絞り値を変化）
10A（ノーマル：シャッタースピードを変化）
0 1A（絞り値を変化）
00A（TTL調光レベルのみ変化）

…マニュアル露出でのオートブラケティング撮影時の可変要素を、上記のいずれかに変更できます。

●メニューナンバー24で 10E（SBブラケティングのみ）に設定されている場合には、メニューナンバー17の設定内容にかかわらず、Mモードによるブラケティングは実行されません。

18 特殊ファインダースクリーン使用時の測光値の補正 ☞ P.127

［設定内容］ 0：補正しない
1：補正する　2.0～-2.0（+2.0EV～-2.0EV・0.5EVきざみ）

…C、G1～G4、Uのファインダースクリーン使用時に必要な測光値の補正を、上記の範囲で行えます。

※補正量はファインダースクリーンの使用説明書をご覧ください。

19 低速側シャッタースピードの延長 ☞ P.65/86

［設定内容］ 0：延長しない
1：延長する

…通常は30秒までの低速側のシャッタースピードの設定を、Mモード時に限り最長30分まで延長できます。

…［1：延長する］を選択したときに30秒を超えるシャッタースピードの設定はメインコマンドダイヤルで次のように延長できます。

40秒	50秒	1分	1.5分	2分	3分	4分	5分
6分	8分	10分	13分	15分	20分	25分	30分

※上記のシャッタースピードを設定した場合は、オートブラケティングによるシャッタースピードの補正は行われません。また露出インジケーターによる露出表示は行いません（消灯）。

20 スピードライト撮影時の同調速度の変更 ☞ P.115

［設定内容］ 0：ノーマル　（1/250秒）
1：変更　300（1/300秒）・250（ノーマル：1/250秒）
200（1/200秒）・160（1/160秒）・125（1/125秒）
100（1/100秒）・80（1/80秒）・60（1/60秒）

…スピードライト撮影時の高速側の同調シャッタースピードの限界を上記の中から選択できます。

…露出モードをSまたはMにし、シャッタースピードをx250（1/250秒）にしてカスタムセッティングの内容を300（1/300秒）に設定すると、1/300TTL高速シンクロ撮影が可能です（ただし、P、A時は通常どおり1/250～1/60秒で制御されます）。

●1/300TTL高速シンクロ撮影時は、ガイドナンバーに制約がありますので、調光範囲の確認はP.122の方法で行ってください。

21 AE/AFロックボタンでのAE・AFロックの変更 ☞ P.73/74

[設定内容] 0：ノーマル （ダブルロック）
1：変更 AEL（AEロック）
AFL（フォーカスロック）
L-L（ノーマル：ダブルロック）

…[1：変更] を選択するとAE/AFロックボタンの機能を上記のいずれかに変更できます。

22 サブコマンドダイヤルによる絞り値の設定 ☞ P.63/66

[設定内容] 0：する
1：しない

…CPU内蔵ニッコール装着時、露出モードがAまたはMのときにサブコマンドダイヤルで絞り値を設定できますが、これを無効にして、レンズの絞りリングでのみ絞り設定が行えるようにできます（Gタイプニッコールレンズを除く）。
…Gタイプニッコールレンズ装着時は、必ず［0：する］を選択して、サブコマンドダイヤルで絞り値を設定してください。

23 AFモード時の前ピン・後ピンの表示 ☞ P.29/51

[設定内容] 0：表示する
1：表示しない

…フォーカスモードがSまたはCのとき、前ピン・後ピンを示す“▶”表示、“◀”表示を点灯させないようにできます。

24 オートブラケティング時のAE・SBブラケティングの変更 ☞ P.78

[設定内容] 0：ノーマル （AE・SBブラケティング）
1：変更 0 1E（AEブラケティングのみ）
10E（SBブラケティングのみ）
1 1E（ノーマル：AE・SBブラケティング）

…[1：変更] を選択するとオートブラケティングの内容を上記のいずれかに変更できます。

各部の詳細

各部の詳細について説明しています。

ファインダー像が見えにくいときには［視度調節］

標準装備のマルチフォトミックファインダーDP-30は、ディオプターの調節（視度調節）が可能です。

…視度調節ノブを引き出して、ファインダーをのぞきながら、5つのフォーカスフレームが最もシャープに見える位置にノブを回して調節してください。
…視度調節ノブを押し込むと、ロックされます。

ファインダー視野率／アイポイント／ファインダー倍率

・ファインダー視野率：約100％
　24×36mmの画面をフルサイズで活用できます。
・アイポイント：保護ガラス面より約20.5mm（-1 m^{-1}の場合）
　ハイアイポイント設計ですので、裸眼ではもちろん、メガネをかけたままでも、全視野をケラレなく見ることができます。
・ファインダー倍率：約0.75倍（-1 m^{-1}・50mmレンズ∞の場合）

暗いところで表示を確認するには［イルミネーター］

周囲が暗くて表示パネルの表示が見にくいときには、イルミネーターを点灯させることができます。

…電源スイッチをイルミネーターポジション“ ”の方向に回すと、半押しタイマーが作動し、上面表示パネルと背面表示パネルの両方にブルーグリーンのイルミネーターが点灯します。

…電源スイッチは指を離すと元の位置に戻りますが、イルミネーターは、半押しタイマー作動中は点灯し続けます。またレリーズ直後には消灯します。

…ファインダー内下部の表示部は、とくに点灯のための操作をしなくても、半押しタイマー作動中は常に照明が点灯し続けます。

フォーカスモードがAFモード（**S**：シングルAFサーボ または **C**：コンティニュアスAFサーボ）に設定されているときに、AF作動ボタンを押すと、シャッターボタンを半押しした場合と同様に、AFレンズが駆動して、カメラがオートフォーカスでピント合わせを行います。

【横位置用】

【縦位置用】

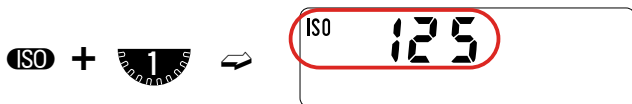
AF作動ボタンはこんなときに

・動きのある被写体を、シャッターボタンを半押しした状態のまま追い続ける場合などに、シャッターボタンの半押し状態を維持するのが困難なとき

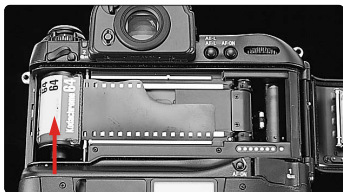
CUSTOM シャッターボタンの半押し操作で、AFレンズが駆動しないようにできます。この場合、AF作動ボタンを押している間のみオートフォーカスが作動し、シャッターボタンはレリーズだけの機能になります（レリーズ時もレンズは駆動しません）。AF作動ボタンでピントを合わせておき、シャッターチャンスを待つ場合やAE/AFロックボタンを使わずに構図を変えたい時等に便利です。 ☞P.89

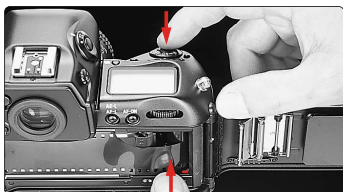
フィルム感度を手動で設定するには

DXマークの付いていないフィルムを使用する場合や、DXマーク付きでもフィルム感度を変更して増感撮影する場合は、下記の操作でフィルム感度を設定してください。

設定したいフィルム感度を点灯させる。

…フィルム感度はISO6からISO6400の間で、1/3段ステップで設定できます。

F5は、裏ぶたを開けたまま、フィルムの巻き取り状態を確認することができます。

1 裏ぶたを開けてフィルムを入れる。

…裏ぶたロックレバーを▷マーク方向に押しながら、巻き戻しノブを引き上げて裏ぶたを開き、パトローネ室へパトローネを入れて巻き戻しノブを下げます。 ☞P.34

2 フィルム先端をフィルム先端指標に合わせシャッターボタンを押す。

…フィルムの穴（パーフォレーション）をスプールの突起部に合わせ、フィルムの先端をフィルム先端指標に合わせて指先で軽くフィルムを押しつけたままレリーズすることにより、フィルムの巻き取り状態が確認できます。

…確認後、裏ぶたを閉じてレリーズすると、さらにフィルムの空送りが行われ、1コマ目がセットされます。

●フィルム巻き取り状態確認のためのレリーズを繰り返して行いますと、レリーズ回数分撮影フィルム枚数が少なくなります。

手動でもフィルムを巻き戻すことができます。

●シャッター作動中（シャッター幕が開いているとき）に巻き戻しをしないでください。シャッター幕を破損させることがあります。

1 電源スイッチをONにする。

●電源スイッチONの間、フィルム巻き戻し中のコマ数をフィルムカウンターに表示します。

●フィルム巻き戻し中、フィルムカウンターに表示されるコマ数は実際のコマ数と一致しない場合があります。

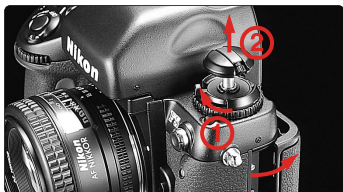
2 カバーを開けて、R1ボタンを押す。

●撮影途中で誤ってR1ボタンを押してしまった場合は、シャッターボタンを半押しするとR1ボタンを元に戻すことができます（この場合、シャッター幕は開かずにフィルムが1コマ送られます）。

3 巻き戻しクランクを起こして ▷ の方向へ回す。

…フィルムの巻き戻しが終わりに近づくと、クランクが少し軽くなります。
これは、フィルムがスプールから離れるときです。
さらにフィルムを充分に巻き取ります。

●フィルムを完全にパトローネに巻き取らないうちは（先端を残したまま）、シャッターをきらないでください。シャッター幕を破損させることがあります。

4 裏ぶたを開け、フィルムを取り出す。

●巻き戻しが完了するまでは、裏ぶたをあけないでください。
またフィルムの取り出しは直射日光が当たらないところで行い、取り出したパトローネは、明るいところへ放置しないでください。
フィルムが感光する場合があります。

ミラーアップ状態にするには［ミラーアップレバー］

ミラーによる振動などを防止したい場合などに、ミラーをアップ状態で固定することができます。

…ミラーアップレバーを、完全に止まる位置まで矢印方向に回します。

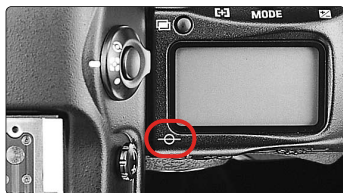
- ミラーを戻す時は、ミラーアップレバーが直立する位置まで完全に戻してください。
- ミラー位置が中途半端なままでピント合わせやシャッターレリーズは行わないでください。
- ミラーアップ状態では適正露出は表示されませんので、ミラーアップ前に適正露出を求め、ミラーアップ後はその適正露出（シャッタースピードと絞りの組み合わせ）に従ってマニュアル撮影に切り換えてください。
- ミラーアップ状態のまま、太陽光にレンズ面を向けて放置しないでください。太陽光がレンズ面より直接入射して、シャッター幕が焼けるおそれがあります。
  とくに、大口径の望遠レンズ（400mmF2.8、600mmF4等）を使用する際には注意してください。

被写界深度を確認するには［プレビューボタン］

プレビューボタンを押し込むと、制御される絞り値、または設定してある絞り値までレンズの絞り径が絞り込まれます。この状態のままファインダーをのぞくと、そのときの絞り値に対するおおよその被写界深度（ピントが合って見える被写体の距離範囲）を確めることができます。

…被写界深度につきましては、P.158を併せてご覧ください。
…露出モードがP、Sのときは、レンズの絞り径が制御される絞り値まで絞り込まれます。露出モードがA、Mのときは、設定してある絞り値まで絞り込まれます。
…プレビューボタンを押し続けている間絞り込み状態が保たれ、プレビューボタンから指を離すと、開放状態に戻ります。
●プレビュー中、オートフォーカスによるピント合わせはできません。
●露出モードがP、Sのときは、プレビュー中に絞り値を変化させることはできません。また、露出モードがA、Mのときは、サブコマンドダイヤルで絞り値を変えることはできません。
●Ai方式のレンズ（CPU内蔵レンズを含む）装着時は、絞り込んだ状態のままでは正常な測光はできません。シャッターをきるときはプレビューボタンから指を離して、開放状態にしてからレリーズしてください。
●非Ai方式のレンズを装着している場合でも、スポット測光での絞り込み測光は、誤差が大きいため使用できません。
●非Ai方式レンズを使用する場合は、P.130の改造が必要です。

フィルム面の位置を確認するには［距離基準マーク］

距離基準マークは、フィルム面の位置を示します。

…距離基準マークは撮影位置の基準となるマークで、接写などで被写体までの距離を実測する場合は、この位置から測ります。
…レンズ取り付け面からフィルム面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

リモートコード等を接続するには［10ピンターミナル］

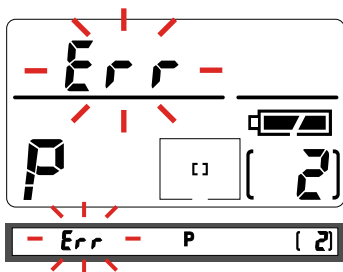
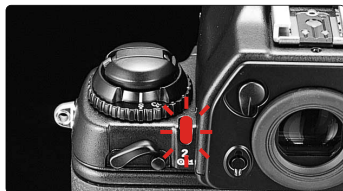
10ピンターミナルに下記のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影、無人撮影などが行えます。

●使用しないときは、必ずキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

名　　称	内　　　容	長　さ
リモートコード MC-20	離れた位置からカメラのレリーズ操作ができるので、カメラぶれを防ぎたい撮影などに便利です。 「LONG EXP」や「TIME」モードを備えており、レリーズ中は1秒ごとに電子音で知らせます。	約80cm
延長コード MC-21	MC-20、22、23、25、30に併用可能な延長コードです。	約3m
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔撮影が可能となります。	約1m
接続コード MC-23	F5カメラ2台を同時に作動させるための接続コードです。	約40cm
変換コード MC-25	F5に従来製品のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2等を接続する際に、10ピンターミナル用に変換するコードです。	約20cm
リモートコード MC-30	カメラぶれを避けたいときや、カメラから離れてシャッターをきりたいときなどに便利です。また、バルブ撮影やフォーカスプライオリティ撮影時に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約80cm
接続コード* MC-33/MC-34	F5とパソコンを接続するコードです（MC-33はWindows95®/98®〈RS-232C 9ピン〉用、MC-34はMacintosh用）。	約1.7m
ルミコントロールセット ML-2	最大で約100m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。複数のML-2を組み合わせると、さらに離れた距離からの遠隔操作が可能です（変換コードMC-25が必要です）。	
ルミコントロールセット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。	

＊F5フォトセクレタリーが必要です。
（※F5フォトセクレタリーおよび接続コードMC-33/MC-34の販売は2002年3月末で終了いたしました）

シャッターの異常を警告します［シャッターモニター機能］

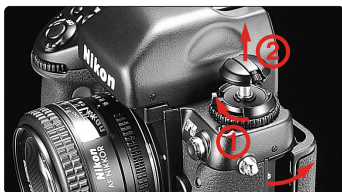
F5は、シャッターをきるごとにシャッタースピードを自動的にチェックして精度を補正する、「シャッターモニター機能」を内蔵しています。
この機能により、シャッタースピードの誤差を最小に抑えて制御すると同時に、シャッター幕に万が一何らかの異常を検出した場合には、外部警告LEDを点滅させるとともに上面表示パネルとファインダー内にErr表示を点滅させて警告します（この場合シャッターはきれなくなります）。

…シャッター精度やシャッター幕の異常を検出した場合は、上記の警告を行います。
この場合は、半押しタイマーがOFFになるのを待って再度半押しするか、または、いったん電源スイッチをOFFにして再度電源スイッチをONにしてください。この操作で警告表示がいったん解除されますが、レリーズごとに警告表示が表示される場合は、当社サービス機関にご相談ください。

●警告が表示された撮影コマは、正常に撮影されないおそれがあります。
●シャッターに不具合がある場合でも、極まれに警告表示が行われない場合があります。

裏ぶたを交換するときは［裏ぶたの取り外し方、取り付け方］

F5専用のマルチコントロールバックMF-28、またはデータバックMF-27を取り付けて使用する場合、裏ぶたの取り外しと取り付けは下記のように行います。

裏ぶたの取り外し方

1 裏ぶたを開ける。

…巻き戻しノブロック解除レバー①を▷マーク方向に押しながら、巻き戻しノブ②を引き上げます。

2 裏ぶたを外す。

…裏ぶた着脱ピンを指先で下に押しながら裏ぶたを右下側に少し傾けて取り外します。

●接点や、フィルム押えローラー、圧板などに触れないように注意してください。これらにゴミや汚れがあると、フィルムを傷つけたり、裏ぶたとボディ間の通信が正常に行われない原因となったりする場合があります。

裏ぶたの取り付け方

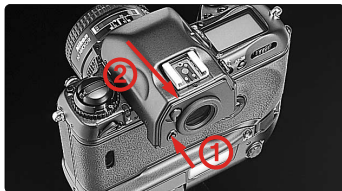
…取り付けは、取り外しの逆の順序で行えます。詳細は各製品の使用説明書をご参照ください。

ファインダーの着脱方法

ファインダーまたはファインダースクリーンを交換するときは、下記の手順でファインダーの着脱が行えます。
…F5にはマルチフォトミックファインダーDP-30が標準装着されています。
●別売りファインダーを取り付けるときも同様に行います。

ファインダー着脱時の注意事項

●ファインダー着脱の際は、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
●撮影の際は、必ずファインダーを装着してください。
ファインダーを外したまま撮影しますと、ファインダースクリーンから強い入射光が入った際に、フィルムにかぶりを生じることがあります。

ファインダーの取り外し方

…ファインダー着脱ボタン①を押しながらファインダー②を手前に引き出します。
●取り外しの際、表面に指紋やゴミが付かないよう注意して、取りはずしたファインダーは、平らな安定した場所に置くようにしてください。

ファインダーの取り付け方

…両側のレール面を合わせて静かにボディにはめ、まっすぐに前方へ、カチッと音がするまで押し込んで固定してください（この時ファインダー着脱ボタンが正しい位置に戻っていることを確認してください）。

F5にはEC-Bスクリーンが標準装着されていますが、ファインダースクリーンを別売りの下記ファインダースクリーンと交換することができます。

…別売りのEC-E、A、B、C、E、G1～G4、J、L、M、Uスクリーンの13種類と交換できます。　各スクリーンについては ☞P.136

スクリーン着脱時の注意事項

●スクリーン着脱の際は、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。

スクリーンの取り外し方

…ファインダーを外した後、スクリーン後部を写真のように持ち上げて外します。

●スクリーン表面に指紋やゴミが付かないよう注意して、取りはずしたスクリーンは、平らな安定した場所に置くようにしてください。

スクリーンの取り付け方

…ファインダースクリーンは平らな面を下にして、スクリーンを写真①のように傾けながら、ボディ側に入れ、写真②のようにスクリーン後部を下に押しつけて固定します。

交換ファインダースクリーン使用時の注意事項

- ニコンF、F2、F3、F4用の交換スクリーンは使用できません。
- マルチフォトミックファインダーDP-30やフォトミックアクションファインダーDA-30のような測光系を有するファインダーを使用する場合は、ご使用になるスクリーンやレンズ、テレコンバーター等により測光値を補正する必要があります。
  補正値につきましては、スクリーンの使用説明書で各スクリーンの補正数値を確認してください。
  補正値の設定はカスタムセッティングで行います。 ☞ P.92

スピードライトを
使って撮影するには

多彩なスピードライト撮影が簡単に行えます。

使用できるスピードライトと可能な撮影

このカメラには、次の別売りスピードライトが使用できます。装着レンズ欄の①はDタイプまたはGタイプニッコール（DXニッコールおよびIXニッコールを除く）、②はDタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコール、③はCPU内蔵ニッコール以外のレンズを示します。

		TTL				A	M			REAR	
スピードライト	装着レンズ	3D-マルチBL調光	マルチBL調光	簡易TTL-BL調光	TTL調光	外部自動調光	マニュアル	FP発光	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	スレーブ発光
SB-800	①	○			○	○	○		○	○	○
	②		○		○	○	○		○	○	○
	③			○	○	○	○		○	○	○
SB-80DX	①	○			○	○	○	○	○	○	○
	②		○		○	○	○	○	○	○	○
	③			○	○	○	○	○	○	○	○
SB-28/28DX SB-25	①	○			○	○	○	○	○	○	
	②		○		○	○	○	○	○	○	
	③			○	○	○	○	○	○	○	
SB-50DX	①	○			○		○			○	○
	②		○		○		○			○	○
	③			○	○		○			○	○
SB-27	①	○			○	○	○			○	
	②		○		○	○	○			○	
	③			○	○	○	○			○	
SB-26	①	○			○	○	○	○	○	○	○
	②		○		○	○	○	○	○	○	○
	③			○	○	○	○	○	○	○	○
SB-24	①②		○		○	○	○		○	○	
	③			○	○	○	○		○	○	
SB-30	①②		○		○	○	○			○	○
	③			○	○	○	○			○	○
SB-23 SB-29s/29 SB-21B	①②		○		○		○			○	
	③			○	○		○			○	
SB-22s SB-16B SB-22 SB-15 SB-20	①②		○		○	○	○			○	
	③			○	○	○	○			○	
SB-11※ SB-14※ SB-140※	①②		○		○	○	○			○	
	③			○	○	○	○			○	

- PCマイクロ85mmF2.8D装着時はあおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには調光制御機能は正しく機能しません。
- スピードライトがTTLモードでカメラの測光モードがスポット測光のときは、常にTTL調光撮影となります。
- F5にウエストレベルファインダーDW-30・高倍率ファインダーDW-31装着時は、接続にTTL調光コードSC-24が必要です（接続により、TTL調光による撮影が可能です）。
- SB-26使用時にワイヤレススレーブセレクターをDにした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/200秒より低速側に切り換わります。

スピードライト使用時の主な注意事項

●SB-29s/29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。

●SB-140使用時の紫外線および赤外線撮影は、SB-140がMモード時のみ可能です。

※SB-11・14・140を使用して、TTLモードを使用する場合は、接続にTTL調光コードにSC-23が必要です。Aモード、またはMモードを使用する場合は、SB-11・14にはSC-13にSU-2を併用して、SB-140にはSC-13にSU-3を併用して、それぞれ接続します。SB-11・14・140とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合はカメラのファインダー内のレディライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

●スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/250秒（1/300TTL高速シンクロ時は1/300秒）以下です。
…メディカルニッコール120mmF4をご使用の場合は、1/125秒以下に設定してください。

●TTLモード時のフィルム感度連動範囲はISO25～1000です。

●フォーカスエリアが中央にない場合は、アクティブ補助光が可能なスピードライトを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。

●露出モードがプログラムオートのとき、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は、使用するフィルム感度によって、下表のように制御されます。

フィルム感度（ISO）	25	50	100	200	400	800	1000
開放側の限界絞り値（F）	2.8	3.3	4	4.8	5.6	6.7	7.1

※ ISO1段に対し、絞りは1/2段変化します。
また、フィルム感度が表の中間値の場合も、上下のフィルム感度から比例的に変化します。
なお、制御される絞り値よりも開放F値の方が暗い場合は、装着レンズの開放側のF値によって制御されます。

●調光補正時はファインダー内に露出補正マーク（⊠）が点灯表示しますが、補正値は表示されません。

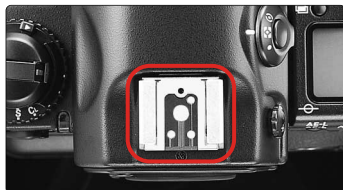
1/300TTL高速シンクロについて ☞ P.92/118

●1/300TTL高速シンクロは、TTL調光可能なスピードライトのうちSB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25・24・23・22s・22・20・16のTTLモードで可能です。他のスピードライトはGN（ガイドナンバー）が小さくなりすぎるためおすすめできません。

●1/300TTL高速シンクロは、スピードライトをアクセサリーシューに装着するか、TTL調光コードで接続した場合のみ、正常に作動します。
TTL調光コード以外で接続した場合や、ワイヤレス増灯撮影によるスレーブ発光はできません（正常に作動しません）。

他社製のスピードライトについて

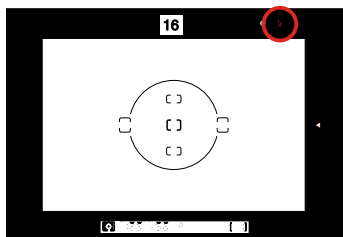
●他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

アクセサリーシュー

別売りスピードライトSB-800・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・23などを使用する場合は、アクセサリーシューに差し込むだけで接続できます（シンクロ接点はX接点のみです）。

…F5のアクセサリーシューには、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800・80DX・30・28/28DX・27・26・25・22s）を取り付けたとき、スピードライトが不用意に外れるのを防止するためのセーフティロック機構（ロック穴）を備えています。

シンクロターミナル

F5にはシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）がありますので、シンクロコードを必要とする撮影時は、シンクロコードをシンクロターミナルに接続してください（シンクロ接点はX接点のみです）。

レディライトの点灯と点滅

別売りスピードライトSB-800・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・23などを使用時に、充電が完了して撮影が可能な状態になると、ファインダー内のレディライトが点灯して知らせます。

●スピードライトがフル発光して露出不足のおそれがある場合は、発光直後にレディライトが約3秒間点滅警告して知らせます。
この場合は、撮影距離、絞り値、調光範囲などを再度確認し、撮影し直してください。

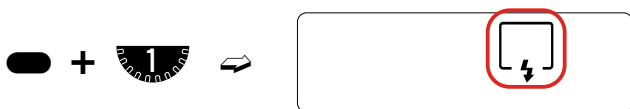
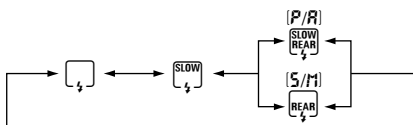
[スピードライト使用時の作動シャッタースピード]

露出モード	設定したシャッタースピード	作動シャッタースピード
P・A	――――	1/250～1/60秒 ※1
S・M	1/8000～1/250秒	1/250秒
	1/250～30秒、X(1/250秒)	設定したシャッタースピード
M	バルブ(bulb)	バルブ

※1. スローシンクロ設定時は、マルチエリアBL調光の機能を生かしたまま、低速側のシャッタースピードを最長30秒まで延長しますので、暗い所での撮影領域がより拡大されます。

CUSTOM スピードライト使用時の高速側の同調シャッタースピードを1／300、1／250、1／200、1／160、1／125、1／100、1／80、1／60秒に変更できます。
☞ P.92

シンクロモードの設定方法

撮影状況や表現意図に合わせて、3つのシンクロモードから好みのモードが選べます。

…背面表示パネルに、希望する下記のシンクロモード表示を点灯させます。

：先幕シンクロ

一般的なスピードライト撮影は、このモードにします。

SLOW：スローシンクロ

夕景や夜景を背景にした人物撮影などで、近くの人物も背景もきれいに表現できます。

…露出モードをPまたはAに設定すると、背景の明るさによって低速側のシャッタースピードは最長30秒まで自動的に制御されます。

REAR：後幕シンクロ

シャッタースピードを遅くして被写体の動きを強調したいときに、被写体の動きを想像させる光の流れなどを、被写体の後方に自然な形で表現できます。

●SB-26・25・24使用時は、スピードライト側のシンクロセレクターで設定します。

…露出モードがPまたはAのときは、自動的にスローシンクロも設定され、背面表示パネルにはSLOW REARが点灯します。

●スタジオ用大型ストロボでは正しい同調がとれないため、後幕シンクロモードはご使用になれません。 ☞P.12/113

スピードライトのTTLモードで可能な撮影

F5にはP.112の別売りスピードライトが使用できますが、F5カメラにSB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25およびSB-30・29s/29・24・23・22s・22・20等を組み合わせた場合、TTLモードで下記の撮影が行えます。

［表1］SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25のTTLモードで可能な撮影

装着レンズ	可能な撮影	備　考	
		距離情報	モニター発光
DタイプおよびGタイプニッコール	3D-マルチBL調光撮影	○	○
DタイプおよびGタイプ以外の CPU内蔵ニッコール	マルチBL調光撮影	—	○
CPU内蔵ニッコール以外	簡易TTL-BL調光撮影	—	—

…3D-マルチBL調光とマルチBL調光を総称して、マルチエリアBL調光と呼びます。

［表2（参考）］SB-30・29s/29・24・23・22s・22・20等のTTLモードで可能な撮影

装着レンズ	可能な撮影	備　考	
		距離情報	モニター発光
DタイプおよびGタイプニッコール DタイプおよびGタイプ以外の CPU内蔵ニッコール	マルチBL調光撮影	—	—
CPU内蔵ニッコール以外	簡易TTL-BL調光撮影	—	—

…レンズの見分け方P.126を参照してください。

［表1］［表2］共通の注意事項

- カメラとスピードライトで重複するシンクロモードの設定は、スピードライト側の設定が優先されます。
- カメラの測光モードがスポット測光の場合は、常にTTL調光撮影になります。
- 露出モードがSまたはMのとき、シャッタースピードをx250にしてカスタムセッティングで1/300秒に設定すると、1/300TTL高速シンクロが可能です。
  1/300TTL高速シンクロ撮影時は、ガイドナンバーに制約がありますので、調光範囲の確認はP.122の方法で行ってください。

■3D-マルチBL調光とマルチBL調光

3D-マルチBL調光時は、撮影レンズからの距離情報と、スピードライト光に照らされたときの被写体の明るさの状況を判断するためのモニター発光による情報が得られ、マルチBL調光時は、モニター発光による情報が得られます（SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25使用時）。
いずれのBL調光時も、主要被写体と背景の明るさを考慮した調光が行われ、撮影画面内に極端に反射率の高いものが存在したり、あるいは背景が大きく抜けているなどの失敗しやすい撮影状況下で、より自然な描写のスピードライト撮影が可能です。

3D-マルチBL調光とマルチBL調光を総称して、マルチエリアBL調光と呼びます。

■簡易TTL-BL調光

背景光の明るさを考慮して、スピードライトの調光レベルをやや弱めに制御します。
…画面内に反射率が極端に高いものや、低いものが存在したり、背景が大きく抜けている状況下では、適正露出が得られない場合があります。

■TTL調光

背景の明るさによらず、スピードライトの調光レベルを常に標準値に固定して制御します。
背景を暗めにして、主要被写体を明るく強調したいときなどに効果的です。

ここではF5の機能をフルに発揮させるために、SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25を使用して、CPU内蔵ニッコールレンズ装着時のマルチエリアBL調光による撮影方法を説明しています。

撮影までの手順

カメラ各部を次のように設定します

1 測光モード

…3D-RGBマルチパターン測光をおすすめします。
スポット測光時は常にTTL調光となります。

2 露出モード

…いずれの露出モードに設定してもかまいません。
…各露出モード時の作動シャッタースピードは ☞P.115
…1/300TTL高速シンクロは ☞P.122

3 シンクロモード

…先幕シンクロにします。

スピードライト各部を次のように設定します

4 電源スイッチ

…ONまたはSTBYにします。

5 発光モード

…SB-800はTTLに、SB-80DX・50DX・28/28DX・26・25はTTLに、SB-27はAUTOにします。

6 シンクロセレクター

…NORMALにします。

●SB-26・25はSB-26・25のシンクロセレクターの設定が優先され、カメラ側のシンクロモードの設定は無効になります。

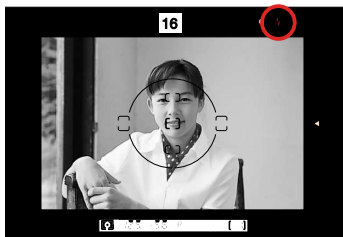
●SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27はシンクロセレクターがありませんので、カメラ側のシンクロモードで設定します。

7 スピードライトの設定表示を確認する。

マルチエリアBL調光時の設定表示

・SB-800の場合：TTLBL
・SB-800以外の場合：TTL

…上記の設定表示を確認し、表示が異なる場合は、スピードライトのMODEボタン（SB-27・26・25の場合はMボタン）を押して表示させてください。

8 ファインダー内の表示を確認する。

…シャッターボタンを半押しして、レディライト“ϟ”の点灯を確認します。

9 調光範囲を確認して撮影する

…スピードライトの表示パネルの調光範囲表示や調光範囲バーグラフから調光範囲を読み取ってください（SB-50DXは調光範囲が表示されません）。詳細はご使用になるスピードライトの使用説明書をご覧ください。

●1/300TTL高速シンクロ時は調光範囲の確認ができません。この場合は、P.122の方法で調光範囲を確認してください。

“ϟ”表示が点滅した場合は

発光直後にレディライト“ϟ”が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足のおそれがあることを警告しています。撮影距離、絞り値、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

1/300TTL高速シンクロ撮影時の調光範囲について

別売りのスピードライト（F3用は除く）のTTLモードで1/300TTL高速シンクロ撮影が可能ですが、各スピードライトの調光範囲バーグラフや露出計算パネルからは、遠距離側の調光範囲を読み取ることができません。
1/300TTL高速シンクロ時は、照射角度ごとにガイドナンバーが下表のように制限されますので、遠距離側の調光範囲は下記のガイドナンバー計算によって算出してください。

1/300TTL高速シンクロ時のガイドナンバー表（各スピードライト共通：ISO100・m）

照射角度	18mm	20mm	24mm	28mm	35mm	50mm	70mm	85mm
ガイドナンバー	8	8	11	12	14	16	18	19

1/300TTL高速シンクロ時の調光範囲の求め方

D（遠距離側の撮影距離）＝ GN（ガイドナンバー）÷ F（絞り値）

例.（フィルム感度ISO100、照射角度35mm、絞り値F5.6のとき）
遠距離側の調光範囲は、D ＝ 14 ÷ 5.6 ＝ **2.5**（m）となります。

…近距離側の調光範囲は、調光範囲バーグラフや露出計算パネルからそのまま読み取ってください。

- フィルム感度がISO100以外のフィルムをご使用になる場合は、上表のガイドナンバーに下表の係数を乗じて算出してください。

ISO	25	50	200	400	800
係数	×0.5	×0.71	×1.4	×2	×2.8

- 1/300TTL高速シンクロ撮影を行う場合は、まず、カメラの露出モードをSまたはMにします。次に、カスタムセッティング（P.92 メニューナンバー20）でスピードライト撮影時の同調速度を300に設定します。他の設定はマルチエリアBL調光による撮影と同じです。 ☞P.120
- 1/300TTL高速シンクロ撮影では、スピードライトがフル発光して露出不足のおそれがある場合でも、スピードライト側のレディライトは点滅警告しません。ファインダー内のレディライトで確認してください。 ☞P.121

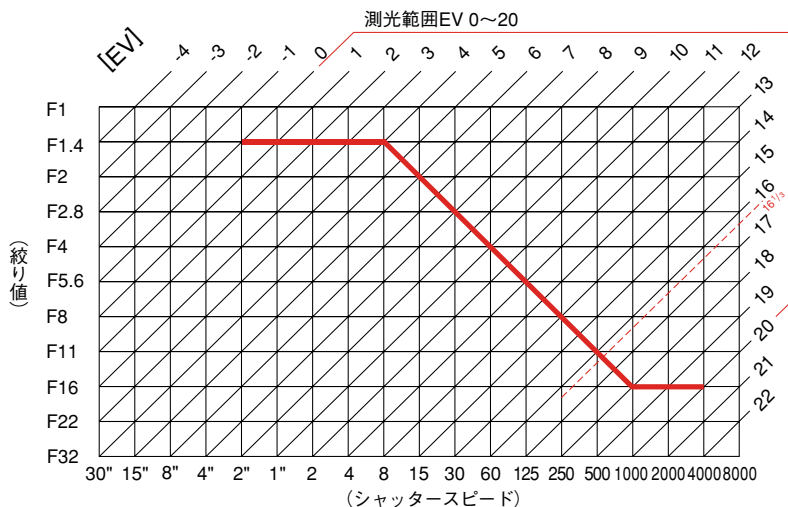
参　考

警告表示とその対応方法、

アフターサービスと保証についてなどを

説明しています。

プログラム線図

このカメラのプログラムオート（P）では、被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞りを自動的に制御します。
したがって、プログラム線図は使用するレンズによっても異なります。

…フィルム感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
…マルチパターン測光では、ISO100のとき$16\frac{1}{3}$を越えるEV値では、すべて$16\frac{1}{3}$として制御されます。

■CPU内蔵ニッコール等

モード ＼ レンズ	フォーカスモード			露出モード				測光モード			
	オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P	S	A ※1	M ※1	マルチパターン測光 3D-RGB	マルチパターン測光 RGB	中央部重点測光 ※2	スポット測光 ※3
Dタイプ AFニッコール ※4 Gタイプ AFニッコール ※5 AF-S、AF-Iレンズ ※6	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
PCマイクロニッコール 85mmF2.8D※7	—	○※8	○	—	—	—	○	○	—	○	○
AF-Sテレコンバーター AF-Iテレコンバーター ※9	○※10	○※10	○	○	○	○	○	○	—	○	○
DタイプおよびGタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）	○※11	○※11	○	○	○	○	○	—	○	○	○
Ai-Pニッコール	△※12	○※13	○	○	○	○	○	—	○	○	○

※1. サブコマンドダイヤルで絞り値設定可能。

※2. 感度分布変更可能。

※3. CPU内蔵ニッコールレンズおよびEC-B/EC-Eスクリーン装着によりスポット測光エリアの移動可能。

※4. このカメラは、VRニッコールレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。

※5. Gタイプニッコールレンズ装着時に、露出モードが A または M の場合は、カスタムセッティングメニューナンバー 22 を必ず 0 に設定し、サブコマンドダイヤルで絞り値を設定してください。 ☞ P.93

※6. DXニッコールおよびIXニッコールは使用できません。

※7. カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。

※8. あおり操作を行っていない場合のみ可能。

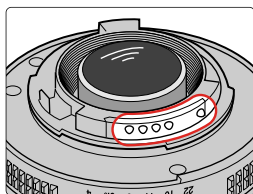
※9. AF-S、AF-I専用。ただしAF-S ED17～35mm f/2.8D（IF）、AF-S ED24～85mm f/3.5～4.5G（IF）、AF-S VR ED24～120mm f/3.5～5.6G（IF）、AF-S ED28～70mm f/2.8D（IF）は使用できません。また、AF-S TC-20EⅡおよびAF-I TC-20Eは、AF-S VR ED200～400mm f/4G（IF）、AF-S ED300mm f/4D（IF）、AF-S ED500mm f/4DⅡ（IF）、AF-S ED500mm f/4D（IF）、AF-I ED500mm f/4D（IF）、AF-S ED600mm f/4DⅡ（IF）、AF-S ED600mm f/4D（IF）、AF-I ED600mm f/4D（IF）との組み合わせではAF撮影はできません。

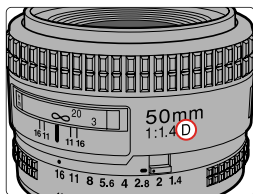
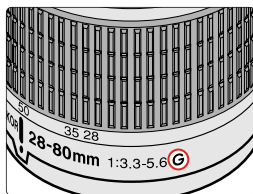
※10. 合成F値がF5.6以上明るいレンズとの組み合わせで使用可能。

※11. AF80～200mmF2.8S、AF35～70mmF2.8S、AF28～85mmF3.5～4.5S、AF28～85mmF3.5～4.5S<New>のいずれかのレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせてください。

※12. TC-16ASを装着し、合成F値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

※13. 開放F値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

ご使用になるファインダースクリーンによっては、露出補正が必要な場合があります。詳細は添付の「レンズとファインダースクリーンの組み合わせ」をご覧ください。

■CPU内蔵ニッコールの見分け方

CPU内蔵ニッコールには
CPU信号接点があります。

Dタイプニッコールレンズ

Gタイプニッコールレンズ

CPU内蔵ニッコールを大別すると、下記の5種類があります。

CPU内蔵ニッコールの種類		例
① Dタイプニッコールレンズ	（開放F値の後にD）	1：1.4 D
② Gタイプニッコールレンズ	（開放F値の後にG）	1：3.3〜5.6 G
③ AF-SまたはAF-Iテレコンバーター	（製品区分にAF-SまたはAF-I）	AF-S Teleconverter AF-I Teleconverter
④ DタイプまたはGタイプ以外の AFニッコールレンズ	（製品区分にAF）	AF NIKKOR
⑤ Ai-Pニッコールレンズ	（開放F値の後にP）	1：4 P

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等

モード／レンズ	フォーカスモード			露出モード				測光モード		
								マルチパターン測光		中央部重点測光 スポット測光
	オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P	S	A	M	3D-RGB	RGB	
Ai-S、Ai シリーズEレンズ	△※1	○※2	○	—	—	○	○	—	—	○
Ai改造ニッコール	—	○※2	○	—	—	○	○	—	—	○
非Ai方式レンズ※3	—	○※2	○	—	—	○※4	○※5	—	—	○※6
メディカル120mmF4	—	○	○	—	—	—	○※7	—	—	—※6
レフレックスレンズ※8	—	—	○	—	—	○	○	—	—	○※9
PCニッコール※8	—	○※10	○	—	—	○※11	○※12	—	—	○※6
テレコンバーター TC-16AS	○※13	—	—	—	—	○	○	—	—	○※14
Ai-S、Ai テレコンバーター	—	○※15	○	—	—	○	○	—	—	○※14
ベローズPB-6 (接写用リング併用)	—	○※15	○	—	—	○※16	○※5	—	—	○※17
オート接写リング (PK-11A.12.13.PN-11)	—	○※15	○	—	—	○	○	—	—	○※18

※1. TC-16ASを装着し、合成F値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
※2. 開放F値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
※3. そのままでは装着できませんが、改造することにより装着可能です。(☞ P.130)
※4. 絞り込み測光で使用可能(プレビューボタンを押したままシャッターをきってください)。(☞ P.103)
※5. 絞り込み測光で使用可能。
※6. 絞り込み測光となります。絞り値がF4(F4含まず)より暗い場合は、P.92メニューナンバー18で＋1の補正が必要です。
※7. 1/125秒以下の低速シャッタースピードで使用可能。
※8. 一部装着不可能なレンズ(☞ P.129)があります。
※9. 差し込みの「レンズとファインダースクリーンの組み合わせ・表2」の補正値を、P.92メニューナンバー18で 補正してください。
※10. あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※11. 絞り込み測光で使用します。レンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後アオリを行ってください。
※12. 絞り込み測光で使用します。レンズ側で絞りプリセットを行い、アオる前に測光して露出を決定してください。
※13. 一部装着不可能なレンズ(☞ P.129)を除き、開放F値がF3.5以上明るいAi-S、Ai、シリーズEレンズで使用可能。
※14. レンズとの組み合わせにより、露出補正が必要な場合があります(ご使用になるテレコンバーターの使用説明書をご参照ください)。
※15. 合成F値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
※16. 絞り込み測光で使用可能(ベローズ側で絞り込みを行い、測光後シャッターをきってください)。
※17. 絞り込み測光、P.92メニューナンバー18で＋2の補正が必要です。
※18. P.92メニューナンバー18で＋0.5の補正が必要です。
・ご使用になるファインダースクリーンによっては、露出補正が必要な場合があります。詳細は添付の「レンズとファインダースクリーンの組み合わせ」をご覧ください。

■CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等使用時の制約事項

設定できる露出モードと測光モード

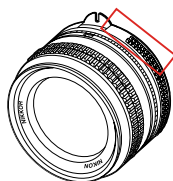
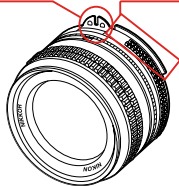
・設定できる露出モードは、絞り優先オート（A）またはマニュアル（M）のみ
・設定できる測光モードは、中央部重点測光（◉）またはスポット測光（●）のみ
●上記以外の露出モードに設定した場合は、設定してある露出モード表示を点滅警告させ、自動的に絞り優先オート（A）に切り換えて制御します。また、上記以外の測光モードに設定した場合は、自動的に中央部重点測光（◉）に切り換えて制御します。

絞り値の確認方法

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した場合、ファインダー内表示と上面表示パネルに絞り値は表示されません（F--表示となります）。絞り値の確認は、ファインダー内の絞り直読窓で行ってください。
●サブコマンドダイヤルによる絞り値の設定はできません。

■Ai方式レンズと非Ai方式レンズの見分け方

Ai方式レンズ

非Ai方式レンズ

Ai方式のレンズは、露出計連動ガイドが付いています。また、露出計連動爪は穴のあいたタイプになっています（ただし、AFニッコールレンズ（F3AF用は除く）、シリーズE、ニッコール50mmF1.8Sには露出計連動爪は付いていません）。

■下記のレンズ等は制限がありますが使用可能です。

- 旧レフレックス500mmF8　三脚座を90度回転させれば装着できます。
- 複写装置PF-4　カメラアダプターPA-4を併用すると装着できます。
- ベローズPB-6　接写用リングを併用すると装着できます（縦横変換を行う場合はPB-6Dが必要です）。

…PB-6を使用する場合は、ダブルレリーズAR-10（変換コードMC-25併用）を使用すると便利です。

●PK-1、2、3、PN-1等の使用時は絞り込み測光となります（使用の際にはP.130記載の改造が必要です）。

●F5に、BR-2リングは使用できません。BR-2Aリングをご使用ください。

■下記のレンズ等は使用できません（無理に装着しようとすると、カメラまたはレンズを破損するおそれがあります）。

- フィッシュアイ8mmF8
- 旧21mmF4
- 旧PC35mmF3.5
- 旧レフレックス1000mmF6.3
- F3AF用（80mmF2.8　200mmF3.5　テレコンバーターTC-16S）
- K2リング

■AFテレコンバーターTC-16ASに下記レンズは使用できません。

レンズの開放F値がF3.5以上（F1.2〜F3.5）明るい場合は、TC-16ASにAiニッコールレンズを装着して、オートフォーカス撮影が可能となりますが、下記のレンズはTC-16ASに使用できません。

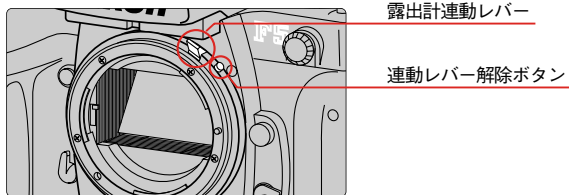
- PCニッコール全製品
- Ai改造ニッコール全製品
- Aiマイクロニッコール55mmF3.5
- Aiニッコール　20mmF2.8　35mmF1.4　400mmF2.8　400mmF3.5
  28mmF2（No.540020以前の製品）　28mmF2.8（No.500000以前の製品）
  35mmF2（No.931000以前の製品）　35mmF2.8（No.880000以前の製品）
  50mmF1.4（No.398000以前の製品）　50mmF2（No.364000以前の製品）

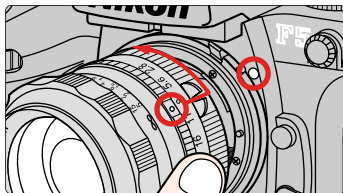
改造について

●下記のレンズをご使用になる場合は、カメラの露出計連動レバーを可倒式に改造することにより使用可能となります（有料）。

- ・Ai改造をしてないレンズ（非Ai方式レンズ）
- ・フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mmF4.5/600mmF5.6/800mmF8/1200mmF11）
- ・PC28mmF4（No.180900以前の製品）
- ・PC35mmF2.8（No.906200以前の製品）
- ・レフレックス1000mmF11（No.142361～143000）
- ・レフレックス2000mmF11（No.200111～200310）
- ・ED180～600mmF8（No.174041～174180）
- ・ED360～1200mmF11（No.174031～174127）
- ・200～600mmF9.5（No.280001～300490）

非Ai方式レンズを使用する場合は、カメラの露出計連動レバーを可倒式に改造する必要があります（P.130参照）。
改造後は、下記の手順で装着できます。

1 露出計連動レバーを押し上げる。

…連動レバー解除ボタンを押しながら、露出計連動レバーを押し上げます。

2 レンズを付ける。

…レンズの絞り指標とカメラボディのレンズ着脱指標を合わせて、反時計方向へカチリと音がして止まる位置（絞り指標が真上になる）まで回します。

マルチコントロールバックMF-28

F5にMF-28を装着しますと、画面外（コマ間）と画面内のいずれか、あるいは両方に、以下のデータや任意のコメント文字を写し込むことができます。※

・画面外：年月日時分秒、年月日時等に任意文字、22桁の任意文字、フィルムカウント数値、露出値など

・画面内：年月日、月日年、日月年、日時分、時分秒、フィルムカウント数値、アップカウント値、固定数値

その他に以下の機能も備えています。

・自動的に段階露出が可能なオートブラケティング機能

・あらかじめマニュアルで設定した撮影距離に、被写体が入ってピントが合ったときにシャッターがきれる、フォーカスプライオリティ機能

・設定した時間の間隔で、設定した回数の撮影を繰り返して行わせる､インターバルタイマー機能

※一部のフィルムにおいては、画面外（コマ間）データの写し込みが薄くなる場合があります。

データバックMF-27

データバックMF-27は、F5に装着することによって、「年月日」「月日年」「日月年」「日時分」のいずれかの写し込みが可能な、簡易型データバックです。

ニッケル水素電池MN-30

ニコンF5カメラに装着して使用する、専用の充電電池パックで、約500回の充放電ができます。撮影可能フィルム本数は条件により異なります（詳細は ☞P.172/173）。

クイックチャージャーMH-30

ニッケル水素電池MN-30専用の充放電器で、放電したニッケル水素電池MN-30を、約100分で充電できます。
また、完全に放電されない状態での充電の繰り返しにより、次第にフル充電状態での容量が減少するメモリー効果を解消するため、放電機能も備えています。
充放電プラグは2つあり、MN-30を2個続けて充放電することができます。

外部電源コードMC-32

ジョンソンターミナルを備えているＤＣ12Vの電源に接続して、F5に長時間安定した電力供給を可能にする専用の外部電源コードです。内蔵ヒューズや保護回路により、過電流、異常高電圧からF5を守るなど、数々の保護機能を備えています。

ニコンスピードライトSB-800
ニコンスピードライトSB-80DX

- 画面内に極端に反射率の高いものがあったり、背景が大きく抜けている場合でも、背景と主要被写体の明るさのバランスを、より自然に再現する3D-マルチBL調光撮影が可能です。
- 暗いところでもカメラのオートフォーカスでピント合わせを可能にするための、アクティブ補助光内蔵（強制消灯可能）。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を連続的に変化させるオートパワーズーム機能が作動します。
- スローシンクロ、後幕シンクロ、外部自動調光、マニュアル発光、マルチフラッシュ発光、FP発光（SB-80DXのみ）、ワイヤレス増灯撮影等、高度なスピードライト撮影が簡単に行えます。
- 電源として内部電源の他に、外部電源（別売り）のSD-6、7、8A、パワーブラケットSK-6がご使用になれます。

ニコンスピードライトSB-27

- 小型軽量なクリップオンタイプのスピードライト。
- 発光部を右水平、垂直、左水平に変えられるので、影をコントロール可能。
- 反射板を内蔵しており、上方向、左方向へのバウンスが可能。
- 拡散板使用により、フラッシュ光をソフトな光質に変えられるので近接撮影に効果的。またフラッシュ光の一部を目に反射させるキャッチライト効果も得られます。
- 3D-マルチBL調光、TTL調光、調光補正、外部自動調光、マニュアル発光可能。
- 暗いところでもカメラのオートフォーカスでピント合わせを可能にするための、アクティブ補助光内蔵。

ニコンスピードライトSB-50DX

3D-マルチBL調光撮影、アクティブ補助光、オートパワーズーム、ワイヤレス増灯撮影等の機能を備えたスピードライトです。

交換ファインダー

標準装備されているマルチフォトミックファインダーDP-30の他に3種のファインダーが用意されています。いずれのファインダーを使用してもファインダー内で露出表示、ピント表示、レディライト等の表示を確認できます。

フォトミックアクションファインダーDA-30

接眼部から5～6cm目を離してもファインダースクリーン像をケラレなく見ることができます。スポーツ写真をはじめとした動きの速い被写体を撮る場合のほか、航空写真や複写などにも好適です。

ウエストレベルファインダーDW-30

ファインダースクリーン上に映る被写体の像（左右逆像）を垂直上方から見ることが可能。折りたたみ式のフードとルーペが組み込まれており、ローアングルでの撮影、接写、複写などに威力を発揮します。

高倍率ファインダーDW-31

スクリーン上の像（左右逆像）を約6倍に拡大、真上から見ることができます。厳密なピント合わせが必要な接写や複写、被写界深度の深い広角レンズ使用時に威力を発揮します。

●使用するファインダーにより、使用できる測光モードに制限があります（いずれもスポット測光は可能）。詳細はP.48・49の「測光モードの選択」と、ご使用になる各ファインダーの使用説明書でご確認ください。

ファインダースクリーンの種類

EC-B	マット式	F5に標準装備されているスクリーンです。スクリーン上に5つのフォーカスエリアを備えています。選択されているフォーカスエリアはスクリーン上で確認できるので、すばやいピンと合わせが可能です。
B	マット式	一般撮影に適します。特にマット面でのピント合わせを好む人や、長焦点レンズなどスプリットプリズムが使用しにくい場合に好適です。
U	望遠用マット式	B型と同じマット式ですが、200mm以上の望遠レンズを使用する場合は、B型よりもファインダー像は見やすくなります。なお、広角レンズなど焦点距離の短いレンズでは、周辺が暗くなりますので適しません。
EC-E E	方眼マット式	EC-E型はEC-B型に方眼を入れたタイプで、スクリーン上に5つのフォーカスエリアを備えており、選択されているフォーカスエリアが濃く表示されます。 E型はB型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニッコールを使用する時、このスクリーンを用いますと好都合です。
C	十字線式	顕微鏡および天体写真撮影用です。目をわずかに左右に振っても、像と十字線のずれを感じないときピントが合ったことになります。ただし顕微鏡で40倍以上の対物レンズ使用のときはこのずれが見にくいので単に像と十字線がハッキリ見えるようにします。
M	十字線透過式	顕微鏡写真およびベローズ使用の近接撮影に適します。透過式ですから、暗い被写体でも明るい視野が得られ、目盛線を利用して倍率や被写体の大きさを知ることもできます。ピント合わせはC型と同様に行います。
G (No.1 ～ No.4)	マイクロ透過式	マイクロプリズム部によってピント合わせをしますが、フレネル部分にマット面がありませんので暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。その反面被写界深度を見ることはできません。また、レンズに合ったスクリーンを用いないとケラレを生じますので、No.1（短焦点用）～No.4（長焦点用）が用意されております。
J	マイクロ式	一般撮影に適し、中央のマイクロプリズム部およびマット面を使用してピント合わせをします。マイクロプリズム部はピントが合っている場合はマット面と同じようにはっきり見えますがピントが合っていない場合はギザギザに見えます。F8位より暗いレンズでは、マット面でピント合わせを行います。
A	スプリット式	一般撮影に適し、マット面および中央のスプリットプリズムを使用すると、正確なピント合わせが素早く行えます。スプリットにはF5.6までかげりなくピント合わせのできるブライトビュースプリットを採用しています。
L	斜スプリット式	中央のスプリットプリズム部が約45°に傾斜していますので、カメラを傾けなくても、水平線のピント合わせが行えます。

ご注意

- マルチパターン測光は、EC-B、EC-E、B、E、J、A、Lスクリーンのみ可能です。
- 5つのフォーカスエリアが表示されるファインダースクリーンのうち“EC-B/EC-E”以外（B/U/E/G/J/A/L）は、選択されているフォーカスエリアも濃く表示されません。選択されているフォーカスエリアの確認は、カメラのフォーカスエリアインジケーターで行ってください。

フィルター

ニコンフィルターは、ねじ込み式、後部交換式、および組み込み式の3つの形式に大別できます。F5の場合は、ND400、X1を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません(☞P.154 ボディスポット測光時を除く)。ND400を使用する場合は -2/3段、X1を使用する場合は +1段の露出補正をしてください。
また、市販の特殊フィルター等をご使用の場合、オートフォーカスやフォーカスエイド撮影が行えないことがありますのでご注意ください。

- F5の測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できませんので円偏光フィルター（C-PLまたはC-PL Ⅱ）をご使用ください。
- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターの使用をおすすめします。
- 逆光撮影の際や輝度の高い光源が画面に入ったりするときは場合によりフィルターによってゴーストが発生するおそれがありますので、フィルターをはずして撮影することをおすすめします。
- ND8SやND4Sなど露出倍数のかかるフィルターや白黒用フィルターを使用した場合には、3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られないことがありますので、中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。

種類		記号	露出倍数		ねじ込みサイズ（mm）											後部交換式	組み込み式	
			昼光	タングステン光	39	46	52	58	62	67	72	77	82	95	122	バヨネット	39 mm	52 mm
白黒カラー用	ニュートラルカラー	NC	1			○		○		○								
	スカイライト	L1BC			○		○		○		○					○		
	紫外線	L37C			○		○		○		○	○	○	○	○	○		
		L39					○											
白黒用	黄	Y48	1.7（2/3）	1.2（1/3）	○		○		○		○	○				○		
		Y52	2（1）	1.4（1/2）	○													
	橙	O56	3.5（1 5/6）	2（1）	○		○		○		○	○				○		
	赤	R60	8（3）	5（2 1/3）	○		○		○		○	○		○		○		
	黄緑	X0	2（1）	1.7（2/3）			○											
	緑	X1	5（2 1/3）	3.5（1 5/6）			○											
特殊撮影用（白黒・カラー用）	ソフト	No.1	1				○		○		○	○						
		No.2					○		○		○							
	円偏光	C-PL	2〜4（1〜2）			○											○	○
	円偏光Ⅱ	C-PL Ⅱ					○	○	○	○	○	○						
	ニュートラルデンシティ	ND2S	2（1）		○													
		ND4S	4（2）		○		○											
		ND8S	8（3）		○													
		ND400	400（8.6）				○											
カラー用	アンバー	A2	1.2（1/3）		○		○		○		○	○				○		
		A12	2（1）		○		○		○									
	ブルー	B2	1.2（1/3）		○		○		○		○	○				○		
		B8	1.6（2/3）		○		○											
		B12	2.2（1 1/6）		○				○									

※（　）内は絞りの段数を示します。

レンズフード

レンズフードは、斜め前方、または側方からの強い光が直接レンズ面に入るのを防ぐためのものです。ニコンレンズフードには、スプリング式、ねじ込み式、かぶせ式、バヨネット式、エクステンション式およびレンズに組み込まれていて引き出して使うものの6種類があります。各種レンズにそれぞれ専用のフードが用意されています（レンズによっては共通に使うものもあります）。

接眼補助レンズ

遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部にねじ込むだけで簡単に取換えができます。+2、+1、0、-2、-3m^{-1}の5種類が用意されていますが、いずれもボディとの合成視度で補助レンズ単体の視度ではありません。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に付けてお選びください。

●F5では、標準装備のマルチフォトミックファインダーDP-30に視度調節機構が内蔵されております（-3～+1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要な時にご使用ください。

接眼目当てDK-2

接眼窓に取り付けて使用するゴム製の目当てで、撮影にあたってファインダー視野がよりはっきり確認でき、目も疲れません。

アイピースアダプターDK-7

マルチフォトミックファインダーDP-30にアングルファインダーDR-3やマグニファイヤーDG-2を取りつけて使用する際のアダプターです。

接写アクセサリー

●AFニッコールレンズを使用する場合は、PK-1・PK-11・BR-4・K1リングはレンズに直接装着できません。必ずPK-11A・BR-2A・BR-6リングをご使用ください。

TTL調光コードSC-17／28／29

F5（マルチフォトミックファインダーDP-30、フォトミックアクションファインダーDA-30付）に、スピードライトSB-800・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・25・24・23・22s・22・29s/29・21B・20・16Bを使用して、カメラから（約1.5m）スピードライトを離してTTL調光撮影を行う場合や、TTL増灯ターミナルのないスピードライトSB-50DX・30・27・23・22s・22・21B・20などをマスタースピードライト（主灯）として、TTL増灯撮影を行う際に必要なコードです（SC-29はTTL増灯ターミナルを備えていません）。
SC-17およびSC-28には2カ所にTTL増灯ターミナルがありますから、TTL増灯撮影では、1灯のみでは得られなかった作画効果をどなたにでも手軽に楽しんでいただけます。なお、F5（マルチフォトミックファインダーDP-30付）カメラに、スピードライトSB-11・14・140をご使用の際のカメラとの接続方法には、数々の特長を持つTTL調光撮影が可能なSC-23を用いる方法をおすすめします。

TTL調光コードSC-24

F5に、ウエストレベルファインダーDW-30または高倍率ファインダーDW-31を装着した場合、TTL調光コードSC-24を接続することにより、スピードライトSB-800・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・25・24・23・22s・22・29s/29・21B・20・16B・15の使用が可能となり、F5から（約1.5m）離してもTTL調光撮影が行えます。また、SC-23を併用して接続すると、SB-11・14・140のTTLモードも使用可能となり、スピードライト撮影の領域をより一層拡げることができます。

ネックストラップ

AN-1　AN-4Y　AN-4B　AN-6Y　AN-6W

付属のストラップ以外にも革製のAN-1とあみひも製のAN-4Y、AN-4B、および幅の広いAN-6Y、AN-6Wがあります。色はAN-1とAN-4Bが黒、AN-4Y、AN-6Yが黄色、AN-6Wがワインカラーです。

専用セミソフトケース（CF-53／CF-54）

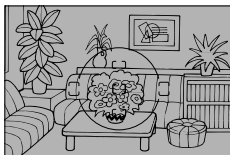
CF-53

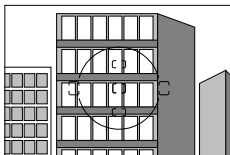
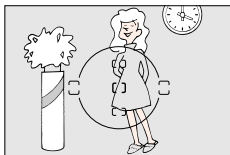
CF-54

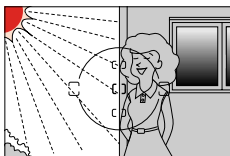
F5には専用ケースとして、CF-53（標準用）と、CF-54（望遠用）が用意されています。
CF-53はAFニッコール28～85mmF3.5～4.5s
CF-54はAFニッコール35～135mmF3.5～4.5s
より小さいレンズを取り付けた状態で収納できます。

オートフォーカスでピントが合わないときは

下記のような被写体には、オートフォーカスでピント合わせができない場合があります。この場合は、ファインダー内に▶ ◀表示が点滅しますので、点滅したときは、マニュアルでピントを合わせるか（☞ P.52）、下記に記載されている方法でピント合わせをしてください。

被写体が非常に暗い場合

・別売りのスピードライト（SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25・24・23・22S・22・20）使用時には、アクティブ補助光を利用してオートフォーカスによるピント合わせが可能です。

連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓等）

フォーカスフレーム内に遠いものと近いものとが混在する被写体（オリの中の動物等）や明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物等）

・フォーカスロック（☞ P.70）でピント合わせをしてください。

フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しい場合（太陽が背景に入った日陰の人物等）

故障かな？と思ったら

外部表示パネル（上面／背面）およびファインダー内に下記の警告表示が点灯または点滅した場合、外部警告LEDが点灯または点滅した場合は、修理やアフターサービスをお申し付けになる前に下記の点をご確認ください。

こ ん な と き			こ こ を 確
上面表示パネル	ファインダー内表示	外部警告LED	
FEE（点滅）	FEE（点滅）	消灯	●露出モードがP／Sのとき、レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。
F--（点灯）	F--（点灯）	消灯	●CPU内蔵ニッコール装着して、露出モードがA／Mのとき、レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。 ●CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時は、いずれの露出モードでも点灯します（P／Sモードでの撮影はできません）。
電池マーク（点灯）		消灯	●電池容量がわずかです。
電池マーク（点滅）		消灯	●電池消耗です（シャッターがきれなくなります）。
E（点灯） Err（点滅）	E（点灯） Err（点滅）	点滅	●フィルムカウンターがEのまま、Err表示が点滅して外部警告LEDが点滅しているときは、フィルムが正しく送られていません。
Err（点滅）	Err（点滅）	消灯	●フィルム感度が自動設定（DX）になっていて、DXマーク付以外のフィルムが入っています。 …背面表示パネルには“DX/ISO/Err”が点滅します。

□の場合は、シャッターがきれなくなります。

か　め　て　く　だ　さ　い	参照ページ
●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.37 P.60
●レンズの絞りリングを最小絞りにして、サブコマンドダイヤルで絞り値をセットすると、セットした絞り値を表示します。 ●そのままレンズの絞りリングで絞り値をセットして撮影することもできますが、絞り値表示はF--の点灯のままとなります（絞り値はファインダー内の絞り直読窓で確認してください）。	P.62 P.65
●レンズの絞りリングで絞り値をセットして撮影します。 （絞り値はファインダー内の絞り直読窓で確認してください）。	P.63 P.66
●予備の電池を用意してください。	P.28
●電池を交換してください。	P.28
●フィルムを取り出して入れ直してください。	P.35
●手動でフィルム感度を設定してください。	P.33 P.98

こんなとき			ここを確
上面表示パネル	ファインダー内表示	外部警告LED	
Err（点滅）	Err（点滅）	点滅	●シャッター（シャッター幕やシャッター精度）等に何らかの異常を検出すると、Err表示が点滅し、外部警告LEDが点滅します。
End（点滅）	End（点滅）	点灯	●撮影フィルムが終了すると、外部警告LEDが点灯するとともに、半押しタイマーONの間、End表示が点滅します（半押しタイマーがOFFのときは点灯）。
	▶ ◀（点滅）	消灯	●オートフォーカスでピント合わせができないとき、▶ ◀が点滅してシャッターがきれなくなります（シングルAFサーボ時のみ）。
PまたはS（点滅）	A（点灯）	消灯	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、あるいはレンズが装着されないまま、露出モードがP／Sに設定されています。
HI（点灯）	HI（点灯）	消灯	●被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。
Lo（点灯）	Lo（点灯）	消灯	●被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています

の場合は、シャッターがきれなくなります。

かめてください	参照ページ
●いったん電源スイッチをOFFにし、再度電源スイッチをONにしてください。それでも復帰しない場合は、半押ししてください。この操作で警告表示がいったん解除されますが、レリーズごとに警告が表示される場合は、当社サービス機関にご相談ください。	P.106
●フィルムを巻き戻して取り出してください（フィルム自動巻き戻し中は、外部警告LEDが点滅します）。	P.41 P.42
●マニュアルでピント合わせをしてください。	P.52 P.141
●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているときは、露出モードをAまたはMにしてご使用ください。	P.62 P.64 P.127 P.128
●Sモード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ●Aモード時はより大きい数値の絞り値にしてください。 ●その他、NDフィルターを使用してください。	P.57 P.60 P.62
●Sモード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●Aモード時はより小さい数値の絞り値にしてください。 ●その他、スピードライトを使用してください。	P.57 P.60 P.62

こんなとき			ここを確
上面表示パネル	ファインダー内表示	外部警告LED	
設定したシャッタースピード（点滅）	250 または 設定した高速側の同調スピード（点灯）	消灯	●露出モードがSまたはMで、シャッタースピードが同調スピードより高速にセットされています。 ●カスタムセッティングで高速側の同調シャッタースピードが設定してあるときは、ファインダー内には設定したシャッタースピードが表示されます。
	⚡（赤色点滅）	消灯	●発光直後の約3秒間の点滅は、スピードライトのフル発光を知らせる露出不足の警告です。
BKT（点灯）	±（点滅）	消灯	●オートブラケティングが設定されています。 …背面表示パネルには“BKT”が点灯します。
bulb（点滅）	bulb（点滅）	消灯	●シャッタースピードがbulbに設定してあるときに、露出モードをSにすると点滅します。
		点滅	●R2レバーのみを押してセットしてしまったとき点滅します。

＊F5フォトセクレタリーを用いて、パソコンからデータフル時の警告をするよう設定されているとき、撮影データの記憶容量がいっぱいになると、背面表示パネルに“□”が点滅します。そのまま続けて撮影できますが、古いデータからフィルム1本分ずつ消去されます。
（※F5フォトセクレタリーの販売は2002年3月末に終了いたしました）

□の場合は、シャッターがきれなくなります。

かめてください	参照ページ
●シャッタースピードは、自動的に1/250秒、またはカスタムセッティングで設定した高速側の同調スピードで制御されます。	P.115 P.92
●撮影距離、絞り値、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.120 P.121
●そのまま撮影してください。	P.78
●bulb以外のシャッタースピードにするか、露出モードをMにしてください。	P.86
●R2レバーを戻してセットを解除してください。	—

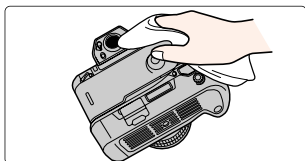
カメラの手入れと取り扱いについて

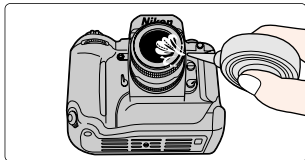
カメラを末永くご使用いただくために、普段から心掛けていただきたい、取り扱い上の注意や、お手入れの方法などをまとめてあります。

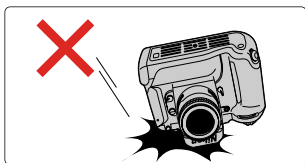
使用禁止

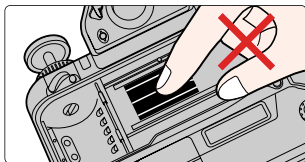
シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの清浄に使用しないこと

火災や健康障害の原因となります。
製品を破損します。

■ カメラ本体を手入れする際の注意

● カメラ本体のお手入れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。
特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。

■ ミラーやレンズを手入れする際の注意

● レンズやミラーにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。
万一レンズに指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、軽く拭き取ってください。

強いショックを与えないでください。

●カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

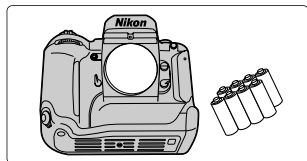
シャッター幕に触れないでください。

●シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。
シャッター幕のキズ、変形、破損などの原因となります。

強い電波や磁気を発生する場所は避けてください。

●テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しなくなることがありますので注意してください。

■ 極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。
…カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

■ 保管する際は電池を取り出し、乾燥剤といっしょにしてください。

長期間カメラを使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を取り出して保管してください。
…保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。
…乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどきとりかえてください。
…カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1ヵ月に1度を目安に電源を入れて、数回シャッターをきってください。

■ 風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。
…ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

放置禁止

電池は幼児の手の届かないところにおくこと

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

●カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出して、高温、多湿となる場所を避けて保管してください。

■ 電池を入れるときは、カメラの電源をOFFにしてください。

●電池を入れるときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてから、⊕⊖を間違いのないよう正しく入れてください。
…付属の電池は購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。

■ 低温時には新しい電池を使用してください。

●低温時には、比較的低温性能がよいリチウム電池、またはニッケル水素電池のご使用をおすすめします。
●低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しなくなることがあります。
低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。
…低温時は、常温時より巻き上げ速度や撮影可能本数も低下します。低温のために、一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

※ニッケル水素電池MN-30の取り扱いについては、ニッケル水素電池MN-30の使用説明書をご覧ください。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしています。

●ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

●ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。

●当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後10年間を目安としています。

●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。
なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

●水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。
なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご購入者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から3 年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。

⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

目　次

測光関係

ファインダー関係

露出制御関係

フォーカス制御関係

レンズ関係

スピードライト関係

フィルム関係

[測光関係]

3D-RGBマルチパターン測光
測光画素数1005（横67×縦15）のCCDセンサーから得られる画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定する測光方式で、マルチフォトミックファインダーDP-30装着時のみ可能です。
選択してあるフォーカスエリアからの被写体の位置情報、画面全体の平均輝度情報、撮影レンズからの被写体までの距離情報、コントラスト情報、被写体の色情報等を、F5にあらかじめ記憶させてある、数万ショットの撮影データを基に構築されたデータベースに照らして最終的な露出を決定しますので、より優れた撮影結果を実現します。
特に、明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が、画面全体を大きく占めている場合などにはより威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。
…Dタイプ以外のAFレンズ装着時は、レンズからの距離情報を用いないRGBマルチパターン測光となります。

中央部重点測光
ファインダー画面全体の明るさを測光しながら、周辺部よりも特にファインダー中央部（通常はφ12mmの円内）に重点をおいて露出値を決定する測光方式。光の状況や撮影意図に応じて、ファインダー中央部の露出を中心に撮影したい場合などに適しています。

スポット測光
ファインダー中心部の約φ4mm（全画面の約1.5％）に相当する部分、EC-B/EC-Eスクリーン以外は約φ6mm（全画面の約3.3％）に相当する部分（フォトミックアクションファインダーDA-30装着時はファインダースクリーンにかかわらず約φ3mm・全画面の約0.8％に相当する部分）を測光して、露出値を決定する測光方式。逆光やコントラストの差が大きい状況などで、被写体の特定の部分のみの露出を基準に撮影したい場合などに適しています。
なおF5では、マルチフォトミックファインダーDP-30+CPU内蔵レンズ+EC-B/EC-Eスクリーンの組み合わせで、フォーカスエリア選択に連動させて測光部分の位置を変えることが可能です。この組み合わせ以外では、中央部でのスポット測光になります。

ボディスポット測光
測光系を内蔵しないファインダー（ウエストレベルファインダーDW-30、高倍率ファインダーDW-31）を使用する場合は、ボディ側のオートフォーカスモジュール（マルチCAM1300）を使用したスポット測光となり、中央部の約φ3mm（全画面の約0.8％）に相当する部分を測光し、露出値の決定を行います。DW-30、DW-31を装着した場合のボディスポット測光は、CPU内蔵ニッコールレンズ装着時は補正なしで使用できます。CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には、補正が必要な場合があります。詳しくはDW-30、DW-31の使用説明書をご覧ください。

[ファインダー関係]

ファインダー視野率
ファインダー内に見える範囲と、実際にフィルム面に写る範囲との辺の比率で、ファインダーの視野を実画面で割った数値で表示します。F5ではファインダー視野率は約100%です。

ファインダー倍率
肉眼で直接見える被写体の大きさに対する、ファインダーを通して見える被写体の大きさを表す比率。肉眼と同じ大きさを等倍、これより小さいときは1以下の数字が用いられるF5のファインダー倍率は約0.75倍（50mmF1.4レンズ・∞・-1.0Dpの時）です。

[露出制御関係]

プログラムオート（P）
適正露出を得るための絞りとシャッタースピードの組み合わせを、被写体の条件に応じてカメラが自動的に決定する露出制御方式です。

シャッター優先オート（S）
撮影者がシャッタースピードを決めて設定しておくと、それに対応した絞り値をカメラが自動的にコントロールして露出制御するAE方式。速いシャッタースピードで動く被写体を静止したようにとらえる撮影や、遅いシャッタースピードで被写体をブラしたり、背景を流したりして被写体の動きを強調するといった撮影に最適です。

絞り優先オート（A）
撮影者が絞り値を決めて設定しておくと、その絞り値に対応した適正露出となるシャッタースピードをカメラが自動的に制御するAE方式。被写界深度を考慮して、絞りを絞り込んで手前から奥まで鮮明に写す、あるいは、絞りを開いてバックをボカして主要被写体を強調するなどの撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞り値の選択によってスピードライトの調光範囲を選ぶこともできます。

マニュアル露出（M）
シャッタースピードと絞り値の両方を撮影者が手動でセットする方法です。撮影状況や表現意図に合わせて自分のイメージを思いのままに表現したり、被写体の状況に応じて意図的に露出をコントロールできますので、撮影者の意図を最も反映させるのに適しております。

プログラムシフト
プログラムオートで撮影中、決められたプログラムによるシャッタースピードと絞り値の組み合わせが撮影目的に合わないとき、露出値は一定のまま、撮影状況に合わせてシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できる機能。この機能により、プログラムオートモードの時すばやくシャッター優先オートや、絞り優先オート的な使い方ができます。

EV値
Exposure Valueの略。露出時間と絞り以外のすべての撮影条件が一定のとき、ISO100、絞りF1、シャッタースピードが1秒のときをEV0とし、絞りを1段絞るか、シャッタースピードを1段速くするごとにEV値も一段ずつ増えていくように定めた露出値を示す1つの表示方法。EV値は、カメラの露出計で測定できる明るさの範囲がEV1～EV19などと表記され、カメラのファインダー内などに表示される絞りとシャッタースピードは測定されたEV値を満たす組み合わせになります。

AEロック
カメラが測光した露出値をカメラに記憶させる機能。被写体の特定の部分や、別の対象を測光し、その露出値を固定したまま構図を変えて撮影することができます。F5では、AEロックした時点での輝度情報（Bv値）を記憶し、それに基づいて露出制御を行います。
一般的には、周辺の光量が変化して露出が変わってしまうのを防ぎたいときなどに用いられる、簡易的な露出補正方法です。

露出補正
強い逆光撮影時などで、カメラが表示した基準となる露出値を意図的に変化させて、撮影意図に合った露出が得られるよう補正することをいいます。F5では±5段の範囲で1/3段ステップの露出補正が可能です。

オートブラケティング
適正露出を得るために、同一シーンの露出を段階的に変えて、自動的に複数枚の撮影を行う自動段階露出機能。一般的には、適正露出の決定が難しい撮影状況のときに用いられる露出補正方法です。

[フォーカス制御関係]

シングルAFサーボ
AF（オートフォーカス）の作動状態を表すことばで、AFが作動して被写体にピントが合うと、その時点でレンズ駆動を停止するAFの作動方式。この方法では、シャッターボタンの半押し操作で合焦表示の点灯によりフォーカスロックがかかるため、静止被写体の撮影に便利です。
ピントが合わなければシャッターがきれないため、「フォーカス優先AFモード」ともいいます。

コンティニュアスAFサーボ
AF（オートフォーカス）の作動状態を表すことばで、シャッターボタンを半押ししている間AFが作動して、被写体にピントが合ってもフォーカスロックせずに、被写体の動きに応じて常にピントを追い続けるAFの作動方式。動きの速い被写体に対しては予測駆動フォーカスとの組み合わせでより効果を発揮します。
非合焦でも、シャッターボタンを押し込めばいつでもシャッターをきることができるため、「レリーズ優先AFモード」ともいいます。

シングルエリアAFモード
F5の5つのフォーカスエリアから構図や被写体の状況に合わせて選んだ、1つのフォーカスエリア単独でピントを検出するモード。狙ったポイントに対して正確にピント合わせをしたいときなどに効果的です。

ダイナミックAFモード
F5の5つのフォーカスエリアすべてを利用してピントを検出するモード。選んだ1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れてしまった場合には、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを検出します。動いている被写体を追い続けるときなど、被写体を1つのフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に効果的です。

フォーカスロック
カメラのAF機構で合わせたピントをそのまま固定する機能。ピントを合わせたい被写体が画面中央より大きく外れている場合や、画面構成に奥行きを表現したいときなどに、撮りたい部分のピントを固定したまま、フレーミングを整えて撮影できます。

マニュアルフォーカス
撮影者自身がレンズの距離リングを手動で回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせる方法。オートフォーカスでピント合わせができない被写体を撮影する時などにこのモードを用います。ファインダー内の合焦表示が点灯するように操作する、フォーカスエイドによるピント合わせも可能です。

予測駆動フォーカス

移動する被写体の動く速さを計測して、その速さからシャッターがきれる時点の被写体の移動位置を予測してピント合わせをするAFの駆動方式。動く被写体に対して、より精度の高いピントが得られます。
F5では、フィルム給送モードにかかわらず、オートフォーカスモードでは被写体の動く条件によって、自動的に予測駆動フォーカスが働きます。

[レンズ関係]

焦点距離

無限遠にピントを合わせたときのレンズの主点から焦点面までの距離をいいます。たとえば標準レンズには50mmF1.4などと表記されていますが、50mmと表示されているこの数値がレンズの焦点距離を示します。また、レンズにはピントが変わることなく連続的に焦点距離を変えられるズームレンズもあります。

Fナンバー

F値ともいい、レンズの明るさを示す値で、レンズの焦点距離を有効口径で割った数値のことをいいます。配列は、1、1.4、2、2.8、4...のように表記され、この数値は1を基準に$\sqrt{2}$を順にかけていった数値で、数値が大きくなるにしたがって暗くなります。また、レンズの一番小さい数値の絞り値を開放絞りといい、一番大きい数値の絞り値を最小絞りといいます。

被写界深度

ある一点にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。このピントの合う範囲を被写界深度といい、ピントの合う範囲が広いときに「深度が深い」、狭いときに「深度が浅い」といいます。被写界深度は撮影距離、レンズの焦点距離、絞り値などによって変化します。

Dタイプレンズ

DはDistance（距離）の略号で、距離信号を備えたレンズのこと。F5とDタイプレンズの組み合わせで、RGBマルチパターン測光に距離情報が加わった3D-RGBマルチパターン測光が可能で、高精度な露出決定が行えます。また、スピードライト撮影時にも、距離情報を取り入れた3D-マルチBL調光で、より高度な調光制御が可能となります。Dタイプレンズは製品名のF値の後にDの符号が付されて区別されます。

距離信号
Dタイプレンズは、被写体までの距離をボディに伝達するための信号を内蔵しています。この信号によって、3D-マルチBL調光や3D-RGBマルチパターン測光時に、適正露出の判断をより精度の高いものにしています。

[スピードライト関係]

マルチエリアBL調光
TTL5分割センサーで測光した情報をもとに、調光制御を行うBL調光方式。この方式により、撮影画面内に極端に反射率の高いものが存在したり、背景が抜けている撮影状況でも、背景と主要被写体の両方をバランスよく制御して、調光精度を格段に高めています。使用するレンズやスピードライトの種類により、距離信号を使用する3D-マルチBL調光と、使用しないマルチBL調光に分かれます（この両方を総称してマルチエリアBL調光と呼びます）。

3D-マルチBL調光
被写体の状況を把握するため、本発光の前にモニター発光を行い、被写体からの反射光をTTL5分割センサーで測光した結果と、Dタイプレンズから得られる被写体までの距離情報を元に、調光対象領域を総合的に決定して調光制御を行うBL調光方式。この調光方式により、背景に金屏風などの反射率の高いものがあるシーンや背景が抜けている場合でも、主要被写体と背景に適正な露出が得られるように制御されます。

マルチBL調光
スピードライト光をTTL5分割センサーで測光して調光制御を行うBL調光方式で、距離情報が得られないDタイプ以外のレンズ装着時に用いられる方式。使用する別売りスピードライトの種類によっては、モニター発光を行いません。

モニター発光
スピードライトが本発光を行う直前に、撮影画面内の状況を事前に把握するためにスピードライトを瞬間的に発光させる機構。この機構によって、より高度なスピードライト調光が可能です。なお、モニター発光は本発光直前のごく短い時間で行われるため、本発光と区別して確認することはできません。

簡易TTL-BL調光
中央部重点測光によって背景光を求め、スピードライトの調光レベルを一律にやや弱めに制御するBL調光。CPUを内蔵していないレンズ装着時はマルチパターン測光が使用できないため、マルチエリアBL調光に代えて用いられます。

TTL調光
スピードライトの調光レベルを背景光の明るさによらず、常に標準値に固定して制御する機能。背景によっては主要被写体が浮き立って描写される場合があります。
F5の測光モードをスポット測光にすると、TTL調光となります。

スローシンクロ
スピードライトの撮影テクニックの一種で、夕景や夜景などを背景にした人物撮影などで、背景の状況も写したいときなどに低速シャッタースピードで行うスピードライト撮影法。スピードライト撮影では、背景が真っ暗になってしまうことがありますが、このようなとき、背景の明るさに合わせて遅いシャッタースピードで撮影すると、背景も明るく描写できます。このテクニックをスローシンクロといいます。F5のシンクロモードをスローシンクロにすると、カメラまかせによる最長30秒のスローシンクロ撮影が行えます。

先幕シンクロ
後幕シンクロに対することばで、スピードライトを発光させるタイミングが先幕走行終了直後に設定してあるシンクロ機構。通常はこのモードでスピードライト撮影を行います。

後幕シンクロ
スピードライトを発光させるタイミングが、シャッターの閉じる直前に設定されたシンクロ機構。動く被写体をスローシャッターで撮影すると、ブレ画像や光の流れなどが進行方向と逆の方向に現れるため、ごく自然な描写が行えます。先幕シンクロの場合は、進行方向に現れるため、不自然さが生じます。

ガイドナンバー
スピードライトの光量の大きさを示す数値で、単位はGN（ISO100・m）で表記されます。ガイドナンバーから、スピードライト撮影時の設定絞り値や撮影距離が次のように求められます。

ガイドナンバー÷撮影距離＝設定絞り値
ガイドナンバー÷設定絞り値＝撮影距離（発光距離）

調光範囲
自動調光によって適正露出が得られるスピードライト使用時の撮影可能な距離範囲（メートル）を表す数値。調光範囲は、設定した絞り値、使用するフィルム感度、撮影距離などによって異なりますので、スピードライト撮影時にはスピードライト光が被写体まで充分にカバーできる調光範囲内で撮影する必要があります。

同調速度

スピードライトの光源が画面全体を一度に照明できる許容範囲となるシャッタースピードのこと。スピードライト使用時にシャッター幕によって画面がケラレない最も高速側のシャッタースピードが最高同調速度となり、これより低速測の速度はすべて同調速度となります。F5の場合、高速側の最高同調速度は1/250秒（カスタムセッティングによる1/300TTL高速シンクロ時は1/300秒で同調可能）です。

調光補正

カメラの制御機能と連動して、発光制御されるスピードライトの調光レベルを補正する機能。撮影画面内に白い部分が占める割合が多い場合や、主要被写体が画面中央に位置する場合でも小さいとき、あるいは被写体が画面の端に位置するときなどには、露出アンダーになりやすく、逆の場合には、露出オーバーになりやすいので、露出補正や調光補正が効果的です。

1/300TTL高速シンクロ

シャッタースピードをXポジションにして、カスタムセッティングにより同調シャッタースピードを1/300秒にセットすると、TTLモードが可能なスピードライトを装着した場合（一部のスピードライトを除く）、S、Mモードでシャッタースピード1/300秒でのシンクロが可能となります。この場合、各スピードライトのガイドナンバーは制限されます（☞ P.122）。
P、Aモードでは、1/300TTL高速シンクロにはならず、1/250秒が高速側の同調速度になります。

［フィルム関係］

DXフィルム

DXコードが記載されたフィルム。フィルムのパトローネについているバーコードには、フィルム感度や撮影枚数などの情報があり、DX対応カメラの場合、このバーコードを読み取ってフィルム感度の自動セットなどを可能にしています。

索引

た

ち

つ

て

と

に

は

ひ

参考

仕様

型式	モーター内蔵35mm一眼レフレックス電子制御式フォーカルプレーンシャッターオートフォーカスカメラ
露出制御	P ：プログラムオート（プログラムシフト可能） S ：シャッター優先オート A ：絞り優先オート M ：マニュアル
画面サイズ	24 X 36mm
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
交換レンズ	・DタイプおよびGタイプAFニッコール（DXニッコールおよびIXニッコールを除く）：フル機能使用可 ・PCマイクロニッコール85mmF2.8D：オートフォーカスおよび露出モードの一部を除く機能使用可 ・DタイプおよびGタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）：3D-RGBマルチパターン測光を除く機能使用可 ・Ai-Pニッコール：3D-RGBマルチパターン測光およびオートフォーカスを除く機能使用可 ・CPU内蔵ニッコール以外：露出モードはA、Mモードで可、測光モードは中央部重点測光およびスポット測光モードで可 開放F値がF5.6より明るい場合フォーカスエイド可 ・TC-16AS：開放F値が3.5以上明るいレンズでAF使用可（フォーカスエイド不可）、一部レンズを除く ・非Ai方式レンズ：当社サービス機関でボディを改造することで装着可能（絞り込み測光）
ファインダー	・アイレベル式マルチフォトミックファインダーDP-30標準装備、視度調節機構内蔵、ホットシュー、アイピースシャッター付 他に3種のファインダーと交換可能
アイポイント	20.5mm（$-1.0m^{-1}$のとき）
ファインダースクリーン	専用EC-Bスクリーン：ECデバイスによりフォーカスエリア5点をオンスクリーン表示可能、他13種と交換可能
ファインダー視野率	約100％（対実画面）
ファインダー倍率	約0.7倍（50mmF1.4レンズ・∞・$-1.0m^{-1}$の時）
ファインダー内表示（イルミネーター付）	・下部LCD表示：測光モード表示、露出モード表示、シャッタースピード表示、絞り値表示、露出インジケーター、フィルムカウンター、露出補正値表示、露出補正マーク、シャッタースピードおよび絞り値ロックマーク

	・上部LED表示：ピント表示、フォーカスエリアインジケーター、レディライト、露出レベル表示（ウエストレベルファインダーDW-30、高倍率ファインダーDW-31装着時） ・右側LED表示：フォーカスエリアインジケーター ・フォーカスフレーム（エリア） ・絞り直読窓
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、プレビューボタン付
オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM1300オートフォーカスモジュールにより検出 ・検出範囲：EV -1～+19（ISO100・常温）
レンズサーボ	・シングルAFサーボ（S）、コンティニュアスAFサーボ（C）、マニュアルフォーカス（M） ・シングルAFサーボ（S）、コンティニュアスAFサーボ（C）では、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行
フォーカスエリア	5箇所のフォーカスエリアの中から1箇所を選択可能
AFエリアモード	・シングルエリアAFモード ・ダイナミックAFモード
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（S）時シャッターボタン半押しにて可能
測光方式	TTL開放測光方式 以下の3測光モードより選択可能（使用するファインダー、スクリーン、レンズの種類によっては制限あり） ・3D-RGBマルチパターン測光： マルチフォトミックファインダーDP-30内の1005の測光画素により測光 ・中央部重点測光： φ12mm範囲を測光（中央重点度約75%） ・スポット測光： φ4mm相当を測光（マルチフォトミックファインダーDP-30、EC-Bスクリーン使用時）
測光範囲	3D-RGBマルチパターン測光　EV0～20 中央部重点測光　EV0～20 スポット測光　EV2～20 （常温、ISO100、F1.4レンズ使用時）

露出計連動	CPU連動方式、Ai方式併用、露出計連動レバーを可倒式に改造可能
露出補正	±5段の範囲で1/3段ステップで補正可能
AEロック	AE/AFロックボタンにより輝度値をロック
オートブラケティング	撮影枚数＝2コマまたは3コマ、補正ステップ＝1/3、2/3、1段のステップで 9 種類の組み合わせの中から選択可能
フィルム感度設定	・DX方式、マニュアルのいずれも可能（マニュアル優先） ・フィルム感度連動範囲：DX時・ISO25〜5000 マニュアル時・ISO6〜6400、1/3段ごとにセット可能
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター （シャッターモニター機能内蔵）
シャッタースピード	・P、Aモード時：30〜1/8000秒 ・Sモード時：30〜1/8000秒（1/3段ステップ）、X（1/250） ・Mモード時：30〜1/8000秒（1/3段ステップ）、buLb、X（1/250）
シンクロ接点	・X接点のみ、1/250秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトに同調
スピードライトの調光方式	TTL自動調光5分割センサー一体型ICによる以下の調光制御 ・マルチエリアBL調光：SB-800・80DX・50DX・28/28DX・27・26・25とDタイプおよびGタイプニッコールの組み合わせにより3D-マルチBL調光可能。DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ、またはモニター発光を行わないスピードライトとの組み合わせ時にはマルチBL調光可能 ・簡易TTL-BL調光：SB-800〜20等とCPU内蔵ニッコール以外のレンズとの組み合わせ時は中央部重点測光による簡易TTL-BL調光可能 ・スポット測光時は常にTTL調光制御 ・TTL調光時のフィルム感度連動範囲：ISO25〜1000
シンクロモード	先幕シンクロ・スローシンクロ・後幕シンクロ設定可能
レディライト	SB-800・80DX・50DX・30・28/28DX・27・26・23等使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅警告
アクセサリーシュー	マルチフォトミックファインダーDP-30にJIS型ホットシュー装備（シンクロ接点、レディ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、モニター信号接点、GND付）、セーフティロック機構（ロック穴）付
シンクロターミナル	JIS型シンクロターミナル標準装備、外れ防止ネジ付

セルフタイマー	電子制御式、作動時間10秒
プレビューボタン	プレビューボタンにより絞り込み可能
ミラーアップ	ミラーアッププレバーにより可能
フィルム装填	順巻式イージーローディング、シャッターボタンの操作によりフィルムカウント1まで自動空送り（シャッター、ミラーは不作動）
フィルム巻き上げ	・内蔵モータによる自動巻き上げ、**S**、**CL**、**CH**、**CS**切り換え可能 ・巻き上げ速度（コンティニュアスA F サーボ（**C**）、1/250秒以上の高速シャッタースピード、36EX平均値） **S**　：1コマ巻き上げ **CH**：高速連続巻き上げ 約8.0コマ/秒（ニッケル水素電池MN-30使用時） 約7.4コマ/秒（単3形アルカリ乾電池、リチウム電池使用時） **CL**：低速連続巻き上げ 約3コマ/秒　（ニッケル水素電池MN-30使用時） 約3コマ/秒　（単3形アルカリ乾電池、リチウム電池使用時） **CS**：超低速連続巻き上げ 約1コマ/秒　（ニッケル水素電池MN-30使用時） 約1コマ/秒　（単3形アルカリ乾電池、リチウム電池使用時）
フィルム巻き戻し	・内蔵モータによる自動巻き戻し（R1ボタン、R2レバー操作による）、手動巻き戻し可能 ・巻き戻し時間（36EX） 約4秒（ニッケル水素電池MN-30使用時）／約6秒（単3形アルカリ乾電池、リチウム電池使用時）
多重露出	多重露出ボタンとメインコマンドダイヤルによる操作で可能
外部表示パネル情報（イルミネーター）	液晶表示により以下の内容を表示： ・上面表示パネル：シャッタースピード、絞り値、フォーカスエリア、露出補正値、フィルムカウンター、露出モード表示、露出補正マーク、シャッタースピードロックマーク、絞り値ロックマーク、多重露出マーク、バッテリーチェック、オートブラケティングマーク、フォーカスエリアロックマーク、プログラムシフトマーク ・背面表示パネル：フィルム感度、ISO／DX、ブラケティングマーク、ブラケティングバーグラフ、シンクロモード、パソコンリンクマーク、ブラケティング情報、カスタムマーク
外部警告LED	DX警告（点滅）、シーケンスエラー警告（点滅）、シャッターモニター警告（点滅）、フィルム終端表示（点灯）、フィルム巻き戻し表示（点滅）等

仕様ーつづきー

<table>
<tr><td>裏ぶた</td><td>蝶番式（取り外し可能）、フォーカスエリアセレクター装備、マルチコントロールバックMF-28、およびデータバックMF-27と交換可能</td></tr>
<tr><td>10ピンターミナル</td><td>標準装備</td></tr>
<tr><td>電源</td><td>単3ホルダー（アルカリ乾電池またはリチウム電池8本使用）標準装備、ニッケル水素電池MN-30（別売り）使用可能</td></tr>
<tr><td>電源スイッチ</td><td>電源ON、OFFの2ポジション（ロック付）に加え、上部・背面表示パネルにイルミネーターを点灯させるポジションを装備</td></tr>
<tr><td>半押しタイマー</td><td>電源スイッチON後、無操作状態で8秒後自動OFF
電源ON時はシャッターボタンの半押し及びAF作動ボタン等の操作に連動して半押しタイマーON</td></tr>
<tr><td>バッテリーチェック</td><td>半押しタイマーON状態で、上面表示パネルにバッテリーチェックマークを以下の3段階で表示
・：点灯（電池容量充分）
・：点灯（電池消耗）
・：点滅　交換表示（表示消灯時も電池交換）</td></tr>
<tr><td>撮影可能フィルム本数</td><td>
<table>
<tr><th>電池／温度</th><th>単3形アルカリ乾電池</th><th>単3形リチウム電池</th><th>ニッケル水素電池MN-30</th></tr>
<tr><td>常温</td><td>約25本</td><td>約50本</td><td>約32本</td></tr>
<tr><td>-10℃</td><td>約　2本</td><td>約25本</td><td>約15本</td></tr>
</table>
36枚撮りフィルム、装着レンズ AF ED80-200mmF2.8D New、フィルム給送モードS、フォーカスモードC、1/250秒以上の高速シャッタースピード、半押しを8秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、シャッターレリーズ後8秒の半押しタイマーが切れるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施
<table>
<tr><th>電池／温度</th><th>単3形アルカリ乾電池</th><th>単3形リチウム電池</th><th>ニッケル水素電池MN-30</th></tr>
<tr><td>常温</td><td>約50本</td><td>約100本</td><td>約60本</td></tr>
<tr><td>-10℃</td><td>約　7本</td><td>約　50本</td><td>約30本</td></tr>
</table>
36枚撮りフィルム、装着レンズ AF ED80-200mmF2.8D New、フィルム給送モードS、フォーカスモードC、1/250秒以上の高速シャッタースピード、半押しを3秒間持続させた後、無限遠から至近間を3往復し、シャッターレリーズ後、すぐに同じ動作を繰り返して実施
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>温度＼電池</th><th>単3形アルカリ乾電池</th><th>単3形リチウム電池</th><th>ニッケル水素電池MN-30</th></tr>
<tr><td>常温</td><td>約90本</td><td>約250本</td><td>約100本</td></tr>
<tr><td>-10℃</td><td>約10本</td><td>約　70本</td><td>約　60本</td></tr>
</table>
36枚撮りフィルム、装着レンズAF28-70mmF3.5-4.5D、フィルム給送モードS、フォーカスモードC、1/250秒以上の高速シャッタースピード、各コマ毎に無限遠から至近間を1往復1回レリーズ後、すぐに同じ動作を繰り返して実施
</td></tr>
<tr><td>バルブ撮影時
連続撮影時間</td><td>
<table>
<tr><th>温度＼電池</th><th>単3形アルカリ乾電池</th><th>単3形リチウム電池</th><th>ニッケル水素電池MN-30</th></tr>
<tr><td>常温</td><td>約5時間</td><td>約8時間</td><td>約4時間</td></tr>
<tr><td>-10℃</td><td>約1.5時間</td><td>約6時間</td><td>約3時間</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>三脚ネジ穴</td><td>1/4（ISO 1222）</td></tr>
<tr><td>カスタム
セッティング機能</td><td>
・ボディ内カスタムセッティング：
下記25項目のカスタムセッティングが可能
(0)　メモリA、bの選択
(1)　コンティニュアスAFサーボ時のフォーカス優先
(2)　シングルAFサーボ時のレリーズ優先
(3)　オートブラケティング撮影時の補正順序の変更
(4)　シャッターボタンの半押し操作によるAFレンズ駆動
(5)　AEロック時のロック値の変更
(6)　コマンドダイヤル回転方向の変更
(7)　シャッターボタンの半押しによるAEロック
(8)　裏ぶたを閉じる操作によるフィルム自動空送り
(9)　フィルム給送モードCH時のコマ速の変更
(10)　フィルム給送モードCL時のコマ速の変更
(11)　バルブ露光中の外部警告LED点滅
(12)　フィルム終端コマの設定
(13)　多重露出撮影後の設定解除
(14)　中央部重点測光時の重点測光範囲の変更
(15)　半押しタイマー時間の変更
(16)　セルフタイマー時間の変更
(17)　Mモードでのブラケティング撮影時の可変要素の変更
(18)　ファインダースクリーンの明るさ補正
(19)　低速側シャッタースピードの延長
(20)　スピードライト撮影時の同調速度の変更
(21)　AE/AFロックボタンでのAE・AFロックの変更
(22)　サブコマンドダイヤルによる絞り値の設定
(23)　AF時の前ピン・後ピンの表示
(24)　オートブラケティング時のAE・SBブラケティングの変更
・F5フォトセクレタリーを用いてパーソナルコンピュータとの通信によるカスタムセッティング可能
（※F5フォトセクレタリーの販売は2002年3月末に終了いたしました）
</td></tr>
</table>

ツーボタンリセット機能	2つのボタンを同時に約2秒間押す動作により、一部機能を除き、各機能の設定状態を一括して初期状態にリセット可能
大きさ	約158mm（幅）×149mm（高さ）×79mm（奥行）
質量（重さ）	約1210g（ボディのみ、電池を除く）
別売り 専用アクセサリー	・ニッケル水素電池MN-30 ・マルチコントロールバックMF-28 ・データバックMF-27 ・フォトミックアクションファインダーDA-30 ・ウエストレベルファインダーDW-30 ・高倍率ファインダーDW-31 ・ファインダースクリーン12種 ・ソフトケースCF-53/54

※使用中の性能データは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）、新品アルカリ電池使用時のものです。

※仕様、外観の一部を改善のため予告なく変更することがあります。

Nikon

技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

ニコンカスタマーサポートセンター

0570-02-8000

市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間 9:30〜18:00 ＜年末年始、夏期休業等を除く毎日＞

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

株式会社 ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

KL3J00101801 (K391) 10